

ことばは“長いものに巻かれていく”？

～ことばのゆれ調査（平成23年11月）から～

計画管理部 太田眞希恵 / メディア研究部 山下洋子

平成23(2011)年11月に実施した「ことばのゆれ調査」から、「連濁」と「漢字音の読み」について、「なるべく例外を少なくしてゆく動き」（＝長いものに巻かれていく形での変化）という観点から調査結果を分析した。

連濁については、調査した7語のうち6語（「奥深い」「税引き」「高利貸し」「返り咲く」「河川敷」「王者」）が、連濁形で発音する人が圧倒的に多いという結果になった。このうち「奥深い」「税引き」「高利貸し」は、同じ後部要素をもつ他語に連濁形で発音するものが多いということに影響されて（＝長いものに巻かれていく形で）連濁形が多数となったのではないかと考えられる。一方、「同じく（ぐ）らい」だけは、連濁形で発音する人と非連濁形で発音する人が半々で、年代が若くなるにしたがって連濁形をとる人が少なくなるという結果が出た。

漢字音の読みについては、「共存」「残存」「根治」「黄土色」ではよく使われる字音に統一される傾向が出て、「キョーゾン」「ザンゾン」「コンチ」「オードイロ」が多数派となった。一方、「便覧」「黄砂」は、「ピンラン」「コーサ」が多数派となり、「長いものに巻かれていく形」とは異なる傾向が見られた。

また、「連濁」と「漢字音の読み」それぞれで、2010年から行ってきた調査で取り上げた語についても傾向をまとめた。

はじめに

漢字「黄」の音読みには「オウ（呉音）」と「コウ（漢音）」とがあり、「黄土色」「黄砂」ということばにも「オードイロ／コードイロ」「オーサ／コーサ」という2とおりの読みがあらわれる。また、「奥深い」を「オクフカイ」と言う人もいれば、「オクブカイ」と言う人もいる。このように同じもの・同じことを言い表すのに、複数の言い方が共存している現象を「ゆれ」があると言う（塩田雄大（2013予定））。

現在、NHK放送文化研究所 放送用語・表現班では、『NHK日本語発音アクセント辞典』（以下、『NHKアクセント辞典』）の改訂作業を進めているが、辞典に掲載されている語の中で、読みに「ゆれ」のあるものについて調査を行い、語形確定に向け検討を重ねている。

本稿では、平成23(2011)年11月に実施した「ことばのゆれ調査」のうち「連濁」¹⁾と「漢字音の読み」について報告する。さらにそれぞれの章で、2010年以降に放送用語・表現班が行った調査で取り上げた関連語についても紹介し、考察を加える。

平成23(2011)年11月の調査語から、本稿で取り上げる語は以下のとおりである。

<連濁のゆれ>

奥深い、税引き、高利貸し、返り咲く、
河川敷、王者、同じく（ぐ）らい

<漢字音の読みのゆれ>

共存、残存、根治、便覧、黄土色、黄砂

調査の概要は次のとおり。

調査時期：2011年11月3日～20日

調査方法：調査員による個別面接聴取法

調査対象：全国満20歳以上の男女
 調査相手：住民基本台帳から層化無作為
 2段抽出2,000人
 有効数(率)：1,365人(68.3%)

なお、「1. 連濁のゆれ」と「3.おわりに」を太田が、「2. 漢字音の読みのゆれ」を山下が執筆した。

1. 連濁のゆれ

塩田雄大(2011a)は漢字音の変化について論じるなかで、「言語変化の一つの方向性として、「なるべく例外を少なくしてゆく動き」というものがある」と指摘しているが、ことばの変化には、例外を少なくして多数派に収斂する^{れん}ように(=長いものに巻かれる形で)変化していくものがある。第1章では、連濁のゆれについて、“長いものに巻かれる形での変化”という点から調査結果を分析する。

なお1章では、1-1で今回の調査の結果を、1-2で2010年から行ってきた過去3回分の調査結果も含め、全4回の調査で調べた31語について分析・報告する。

1-1 今回の調査結果から

調査の結果、7語のうち6語は連濁形で発音する人が圧倒的に多いという結果になった。

- ・連濁形で発音する人が多かった語
 奥深い、税引き、高利貸し、返り咲く、河川敷、王者
- ・連濁形／非連濁形で発音する人が半々の語
 同じく(ぐ)らい

1-1-1 「奥深い」

①辞書での扱い

「奥深い」ということばについて、まずは辞書調査の結果を見てみる。54～55ページの表18は、本稿で取り上げる調査語が、17世紀以降に出版された主な辞書においてどのような読み方で掲載されてきたかをまとめたものである。このうち、「オクフカイ／オクブカイ」についてまとめたものが表1であるが、辞書調査の結果からは、時代をとおして「オクフカイ(オクフカシ)」「オクブカイ(オクブカシ)」の両方があってゆれ続けてきたことがわかる²⁾。

表1 オクフカイかオクブカイか
 (辞書類での扱い/全61冊)

	大正以前	昭和(戦前)	昭和(戦後)	平成
オクフカイ	9 [8]	7 [6]	6 [5]	10 [8]
オクブカイ	15 [14]	7 [7]	8 [4]	16 [9]

大正以前：江戸時代から大正時代までに発刊された辞書(対象21冊)
 戦前昭和：昭和元年から昭和20年の間に発刊された辞書(対象14冊)
 戦後昭和：昭和21年から昭和63年の間に発刊された辞書(対象10冊)
 平成：平成になってから発刊された辞書(対象16冊)
 ※『NHKアクセント辞典』は対象外。
 ※数値は、主見出し・空見出しや「～とも言う」など、何らかの形でその語形が掲載されている辞書の数を表す。両方の語形が掲載されている場合、それぞれにカウントしてある(ただし、読みがわからない掲載例はカウントしていない)。カギカッコ〔 〕内は、そのうち主見出しとして掲載されている辞書の数。
 ※以降の表3、4、7～9、13～17も同じ。

②NHKでの扱い

一方、『NHKアクセント辞典』³⁾では以下のとおり、最初の1943年版からすべての版で「オクフカイ」という非連濁形のみを掲載してきた⁴⁾。

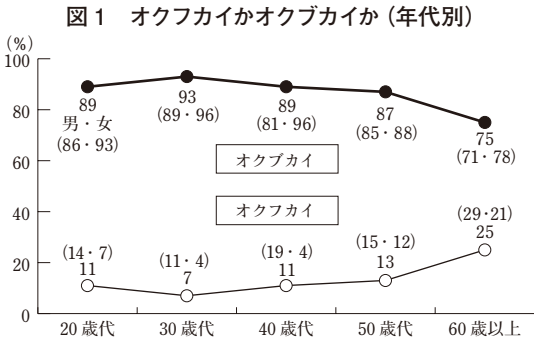
『NHKアクセント辞典』掲載の変遷 (1943) (1951) (1966) (1985) (1998) オクフカイ
--

③調査結果

「オクブカイ」という連濁形で発音する人が84%を占める⁵⁾。

Q. 奥深い作品 オクフカイ 15% オクブカイ 84%
--

年代差を見ると、連濁形「オクブカイ」をとる人が20歳代から50歳代では9割前後いるのに対し、60歳以上では75%と相対的に少ないことがわかる(図1)。



④ 「～深い」は「～ブカイ」へ

～例外を少なくしていく動き～

ここで、現行の『NHKアクセント辞典』に掲載されている「～深い」ということばを抜き出してみると、ほとんどの語が連濁形「～ブカイ」をとっていることがわかる(表2)。これは、結合形容詞は連濁する⁶⁾という傾向に合致したものである。

表2 「～深い」の発音
(『NHKアクセント辞典』(1998))

～ブカイ	奥深い、欲深い
～フカイ、～ブカイ	罪深い
～ブカイ	疑い深い、うたぐり深い、遠慮深い、感慨深い、考え深い、興味深い、草深い、毛深い、木深い、慈悲深い、執念深い、注意深い、慎み深い、情け深い、なじみ深い、根深い、用心深い

このように見ると、表2で「～ブカイ」をとっている(=例外的な発音をする)2語のうち「奥深い」については、「なるべく例外を少なくしてゆく動き」が進み、“長いもの(=「～ブカイ」という多数派の発音)に巻かれる形で「オクブカイ」と発音する人が増えたのではないかと考え

られ、今や圧倒的多数になっていることが今回の調査で確認できた⁷⁾。

1-1-2 「税引き」「高利貸し」

① NHK での扱いと連濁の傾向

まず、「税引き」「高利貸し」ということばについて『NHKアクセント辞典』がその読みをどう掲載してきたかを見てみる。「税引き」は、1966年版で初めて掲載されて以降「ゼイヒキ」という非連濁形のみで掲載してきた⁸⁾。

『NHKアクセント辞典』掲載の変遷	
(1943)	(1951) 掲載なし
(1966)	(1985) (1998) ゼイヒキ

「高利貸し」は、1943年版では連濁形で掲載していたが、1951年版以降は非連濁形での掲載に変わった⁹⁾。

『NHKアクセント辞典』掲載の変遷	
(1943)	コーリカ°シ
(1951) (1966) (1985) (1998)	コーリカシ

「°」は鼻濁音を示す

佐藤大和(1989)では、「(名詞+動詞連用形)において、副詞的連用修飾関係では連濁を起こし易く、格関係では連濁を起こしにくい」としている。「税引き」は《「税」を「引く(こと)」》という目的格の関係にあるため、この説明からすれば非連濁形「ゼイヒキ」をとるはずで、『NHKアクセント辞典』はこの傾向に合致した形を掲載しているとも考えられる。また、「高利貸し」については《「高利」で「貸す(こと)」》という連用修飾関係にあるのだが、この語は「(名詞+動詞連用形)で「…する人」の意味のときは連濁を生じない(佐藤大和(1989))にあたるため、この説明からすれば本来は非連濁形「コーリカシ」をとることになる。

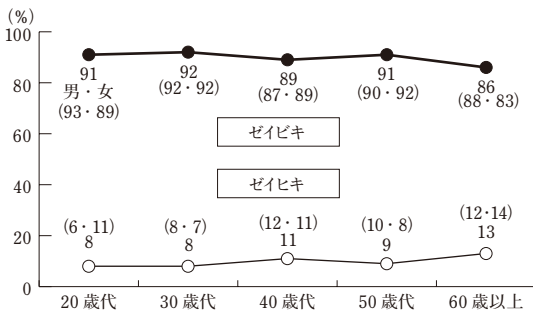
②調査結果

しかし、今回の調査では、「ゼイビキ」「コーリガシ」という連濁形がそれぞれ89%、84%を占めた。

Q. 税引き前の価格
ゼイビキ 10%
ゼイビキ 89%
Q. 悪徳の高利貸し
コーリカシ 15%
コーリガシ 84%

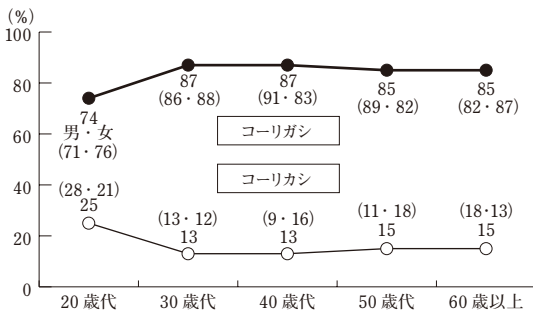
「税引き」は、年代別では60歳以上(特に女性)で連濁形が若干少なかった(図2)。男女差はなかった。

図2 ゼイヒキかゼイビキか(年代別)



「高利貸し」を「コーリガシ」と発音する人は、30歳代から60歳以上までの中高年層では8割以上だが、20歳代のみ74%と年代差があった(図3)。特に、20歳代男性は71%と比較的低かった。

図3 コーリカシかコーリガシか(年代別)



③辞書での扱い

一方、辞書調査を見ると、「税引き」は54～55ページの表18で調べた辞書のなかで最初に登場したのが昭和36(1961)年という比較的新しいことばであることがわかる。昭和40年代に出版された辞書までは「ゼイヒキ」をとっていたのが、それ以降は2012年発行の辞書にいたるまで「ゼイビキ」をとるように変化している。

「高利貸し」は明治時代から辞書に掲載されていたことばである。当時は非連濁形がほとんどだったのが、昭和10年代を境に連濁形が多くなるという変化が起きている。

表3 ゼイヒキかゼイビキか(辞書類での扱い/全61冊)

	大正以前	昭和(戦前)	昭和(戦後)	平成
ゼイヒキ	0 [0]	0 [0]	3 [3]	5 [1]
ゼイビキ	0 [0]	0 [0]	2 [1]	12 [11]

表4 コーリカシかコーリガシか(辞書類での扱い/全61冊)

	大正以前	昭和(戦前)	昭和(戦後)	平成
コーリカシ	11 [11]	4 [4]	3 [2]	12 [6]
コーリガシ	3 [3]	8 [8]	7 [7]	13 [9]

④「～引き」「～貸し」も連濁形が“多数派”

ここでも、現行の『NHKアクセント辞典』(1998)に掲載されている「～引き」「～貸し」ということばを見てみる(表5・6)。どちらも、「～ビキ」「～ガシ」という連濁形をとる語のほうが多いことがわかる。

「税引き」も「高利貸し」も、前で見たとように連濁の傾向からすればどちらも非連濁形をとるはずのことばであるのだが、“長いものに巻かれる形で”連濁形をとる人が多くなっていると考えられるのではないだろうか¹⁰⁾。

表5 「～引き」の発音
 (『NHK アクセント辞典』(1998))

～ヒキ	網引き, 駆け引き, かぜ引き, 金棒引き, 客引き, 車引き, 差し引き, 図引き, 税引き, 大根引き, 綱引き, 取り引き(*), 幕引き, 水引き, ももひき, 宿引き
～ヒキ, ～ビキ	瀬戸引き
～ビキ	置き引き, 音引き, 画引き, 忌引き, くじ引き, 塩引き, 地引き, す(簀)引き, 素引き, 菓引き, 底引き, 手引き, 天引き, 布引き, 根引き, 値引き, 福引き, 船引き網/場, 歩引き, 棒引き, 細引き, 孫引き, 間引き, 万引き, 湯引き, ろう(蠟)引き
～ビキ, ～ビキ	ほん引き
～ツビキ	おかつ引き, 首っ引き

「——」は「～」の部分が目的格で「～を引くこと(引いたもの)」の意味の語。
 「~~~~」は「…する人」の意味の語。
 「~~~~」は「～」の部分が目的格で「～を引くこと」の意味のほか、「…する人」の意味もつ語。
 ※「裏取り引き」「現金取り引き」などの「～取り引き」という複合語はここでは省略し数として含めない。

表6 「～貸し」の発音
 (『NHK アクセント辞典』(1998))

～カシ	金貸し, 高利貸し
～カシ, ～カシ	(なし)
～カシ	浮き貸し, 内貸し, 小貸し, 信用貸し, 損料貸し, 貸貸し, 転貸し, 前貸し, 間貸し, また貸し, 名義貸し

「——」は「～」の部分が目的格で「～を貸すこと」の意味の語。
 「~~~~」は「…する人」の意味の語。

1-1-3 「返り咲く」

① NHK での扱い

「返り咲く」について、『NHK アクセント辞典』は次のように掲載してきた。NHKのなかでもその発音がゆれてきたことがわかる¹¹⁾。これらの記述がどのような議論・検証をへて変化してきたかについて、資料等が残っていないので詳細はわからないのだが、動詞と動詞が複合してできた語(「追いかける」「聞き込む」「積み重ねる」など)は、ふつう連濁しないと指摘されてきた¹²⁾ことと関係があると考えられる。

『NHK アクセント辞典』掲載の変遷

(1943)	掲載なし
(1951)	カエリサク(カエリザク)
(1966)	カエリザク(カエリサク)
(1985)(1998)	カエリザク, カエリサクも

② 辞書での扱い

辞書調査からは、「返り咲く」という動詞形は明治期の辞書には掲載されておらず、戦後になって掲載されるようになって以降は連濁形がとられていることがわかる(表7)。一方で、「返り咲き」という名詞形は古くから連濁形で掲載されている(表18)¹³⁾。

表7 カエリサクかカエリザクか
 (辞書類での扱い/全61冊)

	大正以前	昭和(戦前)	昭和(戦後)	平成
カエリサク	1 [1]	3 [3]	2 [1]	1 [0]
カエリザク	0 [0]	0 [0]	4 [4]	13 [11]

③ 調査結果

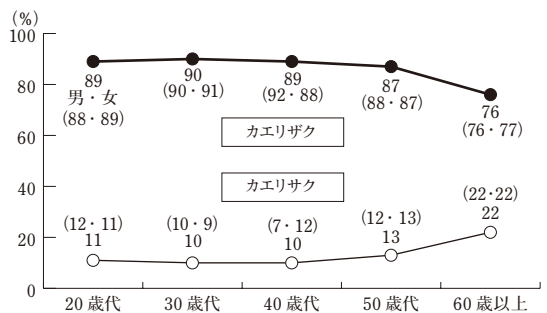
以下のとおり連濁形で発音する人が85%を占めた。

Q. トップに返り咲く

カエリサク 15%
 カエリザク 85%

年代別では、60歳以上では「カエリザク」という連濁形をとる人が他の年代にくらべ少ない(76%) (図4)。

図4 カエリサクかカエリザクか(年代別)



④動詞「返り咲く」も連濁形に

動詞と動詞の複合語のうち、「着替える」「凍え死ぬ」については、伝統的には連濁の傾向に合致して「キカエル」「コゴエシヌ」と非連濁形で発音されていたものが、「キガエル」「コゴエジヌ」と発音されるように変化していることがわかっているが(太田眞希恵(2010))、「返り咲く」の発音については「カエリザク」という連濁形にはほぼ収斂されつつあるようである。

1-1-4「河川敷」

①辞書での扱い

「河川敷」ということばは、54～55ページの表18の辞書調査からもわかるように比較的新しいことばである。

表8 カセンシキかカセンジキか
(辞書類での扱い/全61冊)

	大正以前	昭和(戦前)	昭和(戦後)	平成
カセンシキ	0 [0]	0 [0]	6 [6]	14 [14]
カセンジキ	0 [0]	0 [0]	1 [0]	6 [2]

②NHKでの扱い

NHKではその使い方と読みについて第579回放送用語委員会(1965年)と第950回放送用語委員会(1982年)で次のような決定を行っている。

第579回放送用語委員会(1965(昭和40)年)

【決定】放送では、原則として「かわら(川原, 河原)」と言いかえることにする。ただし、法律の条文など厳密な表現をしなければならない場合は「河川敷き」とし、[カセンシキ]と読む。しかし、[カセンジキ]と読んでも誤りではない。

(決定の理由)

1. 関係官庁、大学に問い合わせた結果では[～シキ]と[～ジキ]の読みが同じ程度に使われているが、その読みを採った根拠は、あまり明確でなくそれぞれの分野での慣用に従って[～シキ]とか[～ジキ]と読んでいるものと思われる。

2. このことばは、一般にあまり使われないので一般の慣用は判断しにくいが、辞典では[～ジキ]の読みを採っているものはない。

3. 「敷」のつくほかの語について、その読みをみると[～シキ][～ジキ]の清濁には、法則的なものは認めがたい。したがって、「河川敷き」の場合にも[～シキ]と[～ジキ]のいずれの読みを採るか、慣用に従うほかはない。しかし1と2の理由で[～シキ]のみを正しいとすることはできないので案のとおりとした。

(下線は筆者)

第950回放送用語委員会(1982(昭和57)年)

【決定】「河川敷」はそのまま使ってよい。

なお、読みは「カセンシキ」「カセンジキ」の両様を認める。

表記は「河川敷」。(特例として送りがなは省く)

(決定の理由)

1. 「河川敷」は、すでになんかなり一般的になっている。

2. 「河原」と言いかえると、異なったニュアンスで受けとられる。

(下線は筆者)

以上の決定をへて、『NHKアクセント辞典』には1985年版から掲載された。

『NHKアクセント辞典』掲載の変遷

(1943) (1951) (1966) 掲載なし

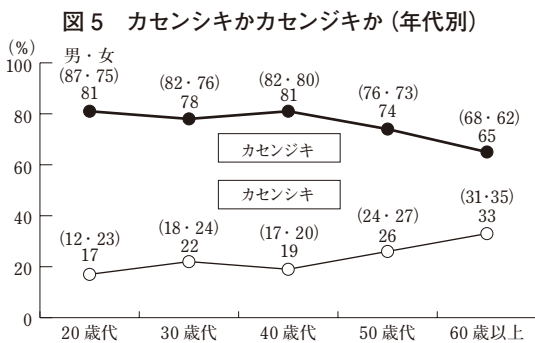
(1985) (1998) カセンシキ, カセンジキ

③調査結果

今回の調査では、ほぼ4人に3人が連濁形で発音することがわかった¹⁴⁾。

Q. 河川敷を歩く
 カセンシキ 25%
 カセンジキ 74%

年代別では、60歳以上では65%と、他の年代にくらべると連濁形をとる人が少ない(図5)。



④日常語となって連濁形へ

連濁の傾向として、「直前が撥音のときは連濁を起こし易い」(佐藤大和(1989))というものがある¹⁵⁾。また、「なじみのある語ほど連濁しやすい」というものもある。これについて金田一春彦(1976)は「その語が日常どのように用いられるかとも関係があり、日常用いられるようになると連濁を起しやすくなる」「反対に耳遠くなると連濁を起さなくなる」としている。このように考えると、「河川敷」は、「敷」の直前が撥音という連濁を起こしやすい語構成である語が近年、日常的に使われるようになるなかで、連濁形で発音されるようになってきたと考えられるのではないか¹⁶⁾。

1-1-5 「王者」¹⁷⁾

① NHK と辞書での扱い

「王者」について、『NHKアクセント辞典』で

は以下のように「オージャ」を優先して掲載してきたが、他の辞書を見ると、古くはほとんどの辞書が「オーシャ」をとっていたことがわかる(表9)。多数の辞書が「オージャ」を主見出しとするようになるのは、平成になってからである。

『NHKアクセント辞典』掲載の変遷
 (1943) オージャ
 (1951) (1966) (1985) (1998)
 オージャ (オーシャ)

表9 オーシャかオージャか
 (辞書類での扱い/全61冊)

	大正以前	昭和(戦前)	昭和(戦後)	平成
オーシャ	15 [15]	13 [13]	10 [9]	13 [5]
オージャ	0 [0]	1 [1]	5 [1]	16 [13]

『NHKアクセント辞典』に掲載されている「～者」という二字漢語のうち、「者」を「シャ」「ジャ」と読む語をまとめたものが表10である。「者」の前に撥音がくる語は「～ジャ」が多く、それ以外(長音を含む)の語では「～シャ」が多い。こうしたなかで、「王者」は「オーシャ」「オージャ」の両方でゆれていたと言える¹⁸⁾。

表10 二字漢語「～者」の発音
 (『NHKアクセント辞典』(1998))

～シャ	三者、仁者、前者、編者 (以上、撥音+者) 強者、業者、巧者、後者、従者、勝者、奏者、壮者、走者、道者、評者、病者、勇者、幼者、両者、ろう(響)者 (以上、長音+者) 医者、易者、学者、記者、御者、愚者、芸者、作者、使者、死者、侍者、弱者、儒者、拙者、他者、打者、達者、治者、知者、著者、読者、二者、敗者、覇者、筆者、牧者、武者、役者、訳者 (その他)
～ジャ、 ～シャ	王者(～ジャ(～シャ))、論者(～ジャ、～シャ) ¹⁹⁾
～ジャ	隠者、縁者、演者、患者、問者、冠者(カンジャ)、賢者、信者、選者、点者、忍者、貧者 (以上、撥音+者) 行者、長者、亡者 (以上、長音+者) 冠者(カジャ)、聖者 (その他)

②調査結果

下記のとおり「オージャ」と発音する人が95%を占めた。年代別や男女別による差はほとんどなく、どの年代も、また男女ともに9割以上が「オージャ」と発音している。

Q. 王者の風格	
オーシャ	4%
オージャ	95%

1-1-6「同じくらい／同じぐらい」

①NHKでの扱い

『NHKアクセント辞典』では1943年の初版から両方を掲載している。

『NHKアクセント辞典』掲載の変遷	
(1943) (1951)	オナジクライ、 オナジク [°] ライ
(1966) (1985) (1998)	オナジクライ オナジク [°] ライも

また、「～くらい／～ぐらい」の使い方については次のように決め、『NHKことばのハンドブック 第2版』(2005)に掲載している。

<p>～くらい・～ぐらい</p> <p>「このくらい(ぐらい)の広さ」「10歳くらい(ぐらい)の子」などの「くらい」「ぐらい」は、どちらを使ってもよい。</p> <p>以前は、次のような使い分けが行われていた。</p> <p>①体言には「ぐらい」が付く。</p> <p>②「この・その・あの・どの」には「くらい」が付く。</p> <p>③用言や助動詞には、普通は「ぐらい」が付くが、「くらい」が付くこともある。</p> <p>「ぐらい」と連濁する場合はひらがな表記も濁音表記とする。</p> <p>〈例〉10歳ぐらいの子</p>
--

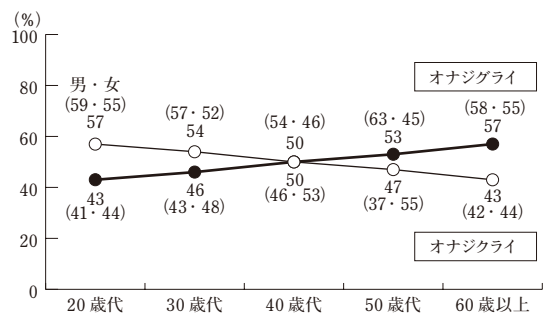
②調査結果

以下のとおり、全体では連濁形も非連濁形もほぼ半々であった。

Q. (おなじくらい／おなじぐらい) の背の高さ	
オナジクライ	49%
オナジグライ	51%

一方で、年代差が大きいことがわかった(図6)。連濁形「オナジグライ」と発音する人は、60歳以上だと6割近くいるが、年代が下がるほど少なくなり40歳代を境に「オナジクライ」「オナジグライ」の勢力が逆転する。20代では非連濁形「オナジクライ」と発音する人のほうが多数派で6割近くとなる。

図6 オナジクライかオナジグライか(年代別)



1-2 これまでの調査結果から「連濁形／非連濁形」収斂への方向性

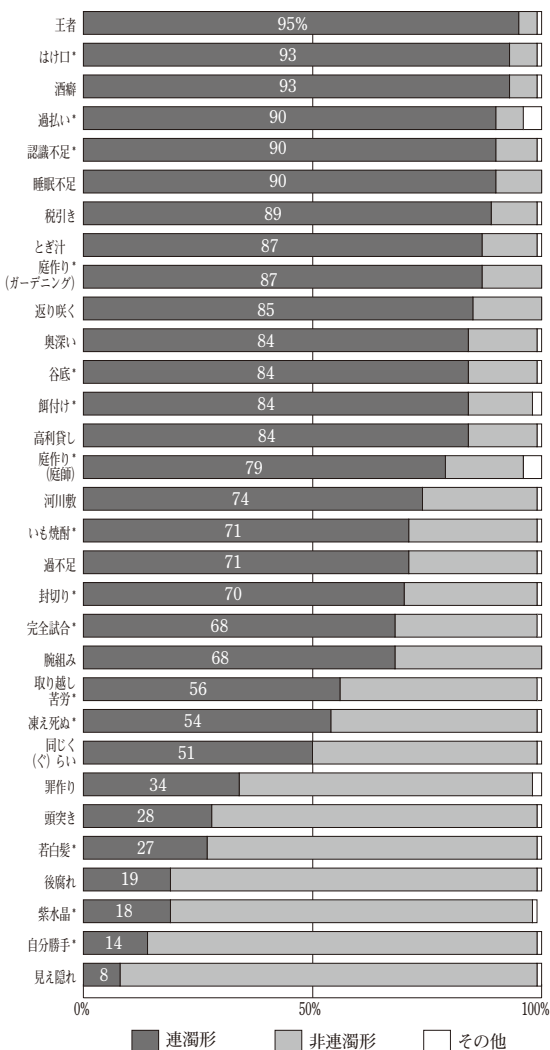
ここでは、2010(平成22)年から行ってきた過去3回の調査²⁰⁾で調べた連濁関連の語も加えて、連濁形／非連濁形の「ゆれ」について分析する。

過去3回と今回の計4回の調査で調べた連濁関連31語について、調査の結果を、連濁形をとる人が多い順に並べたものが図7である。いずれも連濁／非連濁について「ゆれ」があると考えられる語を選定し調査したものだが、31語のうち24語(図7の「同じく(ぐ)らい」から

上が該当)が、連濁形をとる人が半分以上の“連濁勢力多数派”の語となっていることがわかった。

連濁形／非連濁形のゆれが変化しどちらかに収斂していく要因は容易には確定できないが、太田眞希恵(2010)(2011a)(2011c)での報告もふまえ、ここでは2つの要因に注目し分析してみる。どちらも“長いものに巻かれる形で”変化している。

図7 連濁のゆれ(調査結果一覧)



*印の語は、エリア・サンプリング調査による調査語

1-2-1 “長いものに巻かれる”パターン①

～同じ後部要素をもつ他語からの影響～

今回の調査語の中に該当するものが3語あったが(「奥深い」「税引き」「高利貸し」)、同じ後部要素をもつ他語に連濁形で発音するものが多いということに影響されて(“長いものに巻かれる形で”), その語も連濁形へと変化していると考えられるものがある(Shioda, Takehiro(2011d))(太田眞希恵(2010)(2011a)(2011c))。

31語のうち、この影響によって連濁形に収斂しているものとしては、以下の12語があった(表11)。

表11 同じ後部要素をもつ他語からの影響で連濁形に収斂していると考えられる語

～口	はげ口
～不足	認識不足, 睡眠不足, 過不足
～引き	税引き
～汁	とぎ汁
～作(造)り	庭作り(ガーデニング), 庭作り(庭師)
～深い	奥深い
～貸し	高利貸し
～試合	完全試合
～払い	過払い, ²¹⁾

1-2-2 “長いものに巻かれる”パターン②

～年代差から見える収斂の方向性～

過去3回の調査では、年代差があらわれた語が多数あった。今回の調査語でいえば「河川敷」がそれに該当するが(図5)、高年層では「カセンシキ(33%) / カセンジキ(65%)」でその読みに「ゆれ」が存在するのに対し、若年層では「カセンシキ(17%) / カセンジキ(81%)」となり「ゆれ」が少なくなる方向(=多数派「カセンジキ」に収斂される方向)に変化している、というパターンである²²⁾。そこで、全31語を年代差に注目して分析することにする。

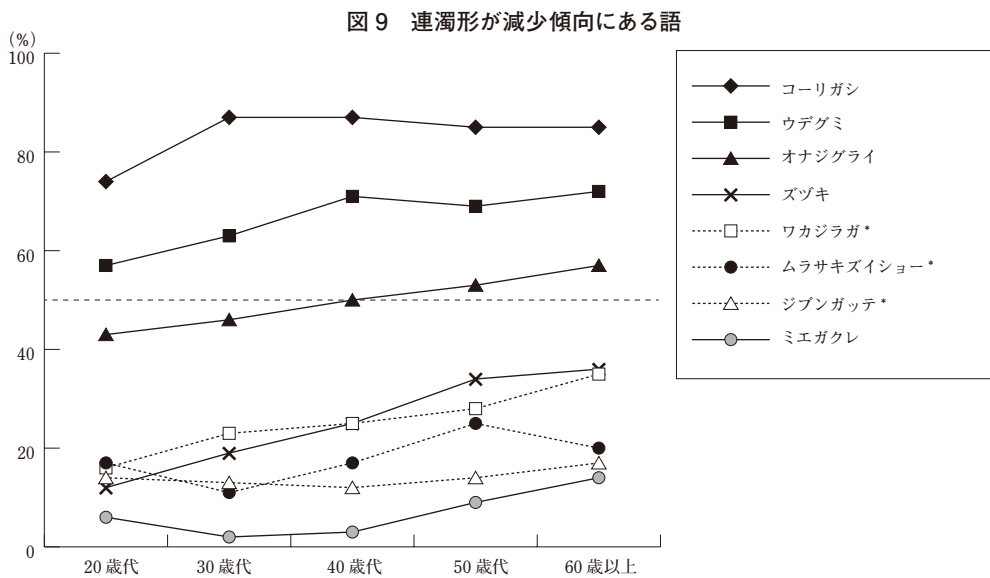
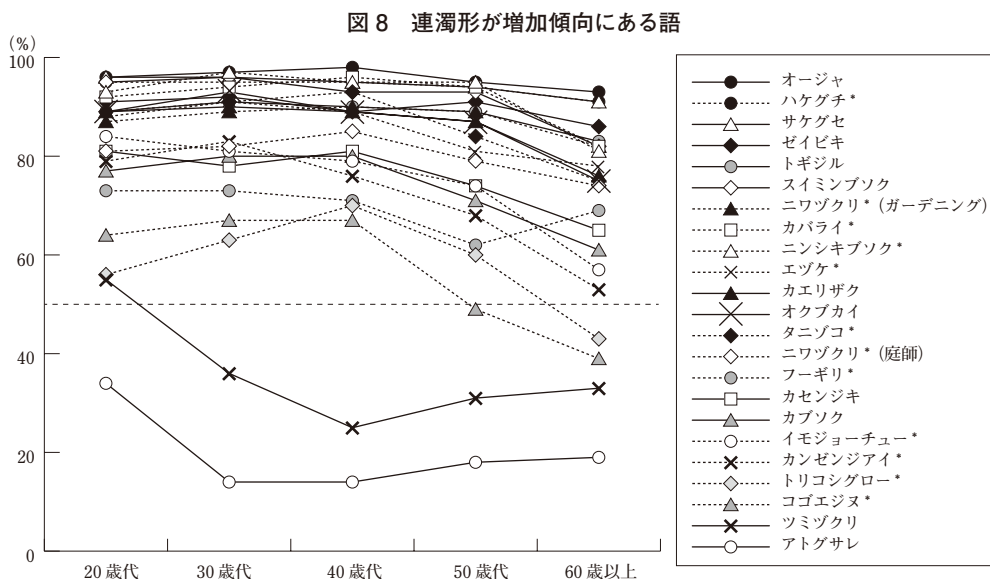
これまで調査した全31語について、連濁形をとる人の割合を年代別に表したものが図8・

9である。図8には、連濁形が若い年代で増えている語（左肩上がりの折れ線となる語）を、図9には、その語の連濁形が若い年代で減っている語（左肩下がりの折れ線となる語）をまとめて示した²³。

図8に示された23語を見ると、多くの語がグラフ上部に集中していることがわかる。すなわ

ち、連濁形が若い年代で増加傾向にある語の多く（23語のうち19語）は、どの年代でも連濁形をとる人が半数以上の“連濁勢力絶対多数派”の語である。

一方、図9を見ると、8語のうち5語がグラフ下部にかたまっていて、どの年代でも連濁形をとる人が半数以下となっている。この5語は、



※エリア・サンプリング調査による調査語は、凡例に*印をつけ、グラフは点線で示した。

逆に言えば，“非連濁勢力絶対多数派”の語であるのだが，上記の“連濁勢力絶対多数派”の語（以下，「A語群」とする）と，“非連濁勢力絶対多数派”の語（以下，「B語群」とする）とをくらべると，ある共通性が見えてくる。

それは，どちらも，高年層では存在する「ゆれ」が若くなるほどなくなっていて，語として多数派へと収斂する方向に変化している，ということである。A語群は，多数派である連濁形へと収斂し，B語群は，多数派である非連濁形へと収斂する方向に変化している。つまり，どちらも“長いもの（=多数派）に巻かれる”形で変化が進んでいる，と言える。

以上の，連濁のゆれが“長いものに巻かれる”2つのパターンをまとめると，表12となる。太字で表した語が“長いものに巻かれる”形で変化していると考えられる語で，全31語のうち24語がこれに該当する。連濁の「ゆれ」がある語のうち，多くが“多数派（=長いもの）”に巻かれていることがわかる。

一方で，長いものに巻かれない変化をとげようとしている語もある。これらが多数派ではない方向に変化するのには，語ごとに違った理由がありそうだが²⁴⁾，この点についてはさらなる分析・研究を続け，検討していきたい。

表12 「連濁のゆれ」連濁形／非連濁形多数派と，増加／減少傾向との関係

	連濁形が増加傾向にある語	連濁形が減少傾向にある語
連濁勢力が多数派の語	<p>いも焼酎，鯛付け，王者，奥深い，返り咲く，河川敷，過払い，過不足，完全試合，酒癖，睡眠不足，税引き，谷底，とぎ汁，庭作り（ガーデニング），庭作り（庭師），認識不足，はげ口，封切り</p> <p style="text-align: right;">A語群</p> <p>取り越し苦労，凍え死ぬ</p>	<p>腕組み，同じく（く）らい，高利貸し</p>
連濁勢力が少数派の語 （非連濁勢力が多数派の語）	<p>後腐れ，罪作り</p>	<p>B語群</p> <p>自分勝手，頭突き，見え隠れ，紫水晶，若白髪</p>

※ 下線は，同じ後部要素をもつ他語からの影響で連濁形に収斂していると考えられる語

2. 漢字音の読みのゆれ

2-1 調査語の選定

漢字音の読みのゆれについては，1939年ごろ，2とおり以上の読みでゆれのあった漢語の中から，現代でもゆれの見られる語を抜き出し調査語とした²⁵⁾。以下，読み方が1つにおさまっていると思われる語の順番（共存，残存，根治，便覧，黄土色，黄砂）に報告する。

2-2 「共存」「残存」の読み

漢音 ソン → 呉音 ゾン²⁶⁾

① NHK での扱い

伝統的には，「キョーソン」「ザンソン」と読み，NHKでは，いずれも「①～ソン，②～ゾン」としている。

「存」の読みには「ソン」と「ゾン」があり，意味によって，読み分けされている。『新潮日本語漢字辞典』（2007）では次のように分類されている。

- A 現にこの場にある。現にこの世にある：
存在，存続，存亡，実存，現存，既存，共存，
残存，依存 など
- B 生きている：生存，存命，存生 など
- C 長い間保ち続ける：保存，温存 など
- D 知っている：所存，存念，存外 など

このうち、B、C、Dは「ゾン」と読まれる。Aは1字目に「存」が位置する語は「ソン」と読みが固定しているが、2字目に「存」が位置する語には「ソン」「ゾン」で読みがゆれているものが含まれる。こうした傾向は、かなり以前から指摘されており、これまでも放送用語委員会で議論されてきている。「共存」「残存」は『NHKアクセント辞典』に次のように立項されている。

『NHKアクセント辞典』掲載の変遷
 (1943) (1951) キョーソン・キョーエイ／ザンソン
 (1966) (1985) キョーソン／ザンソン
 *第1101回放送用語委員会(1991年9月)で「用語の決定」があり、1991年以降は
 ①キョーソン ②キョーゾン
 ①ザンソン ②ザンゾン
 (浅井真慧(1991))
 (1998) ①キョーソン ②キョーゾン
 ①ザンソン ②ザンゾン

②辞書での扱い

表13 ソンかゾンか(辞書類での扱い/全61冊)

	大正以前	昭和(戦前)	昭和(戦後)	平成
キョーソン	1 [1]	5 [4]	10 [10]	16 [14]
キョーゾン	0 [0]	2 [0]	4 [0]	16 [5]
ザンソン	4 [4]	10 [10]	10 [9]	16 [13]
ザンゾン	0 [0]	2 [1]	5 [2]	15 [4]

一般の国語辞典の掲載内容を見ると、「共存」「残存」とともに、「ソン」の読みを主にしているものが多く、時代がくだるに従って「ゾン」の読みも採用されてくる様子がわかる。

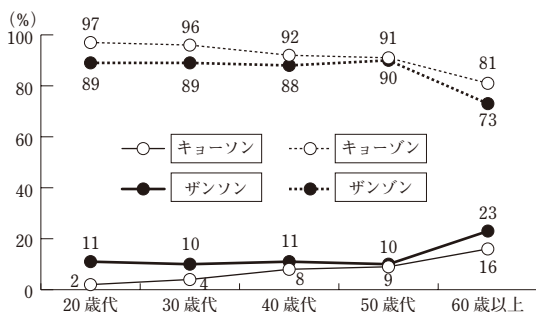
③調査結果

Q. 自然との共存
 キョーソン 9%
 キョーゾン 89%
 Q. 有害物質が残存している
 ザンソン 15%
 ザンゾン 83%

*「ソン」と言う+「ソン」と言うことが多い→○○ソン
 「ゾン」と言う+「ゾン」と言うことが多い→○○ゾン

「共存」「残存」とともに、「ゾン」と読む人が多い結果になった。

図10 「共存」「残存」の読み(年代別)



年代別に見ても、各年代ともに「ゾン」が多いが、60歳以上で「ゾン」が減り、「ソン」が増えている。こうした傾向は、「共存」よりも「残存」のほうにやや強く見られる。

④「存」は「ゾン」に

『NHKアクセント辞典』に掲載のある「存」を含む二字漢語は次のとおりである。

- ・「ソン」と読むもの：既存、厳存、自存、存在、存続、存置、存廢、存否、存亡、存立
- ・「ゾン」と読むもの：異存、一存、温存、実存、所存、生存、存外、存念、存分、存命、保存
- ・「ソン」「ゾン」と読むもの：依存、共存、恵存、現存、残存、併存

網掛けの語は、「共存」「残存」と同様の使い方の方の「存」である。次に「存」の位置で分類してみる。

「ソン○○」	「○○ソン」
存在、存続、存置、存廢、存亡、存立、存否	依存、既存、 異存 、 恵存 、 現存 、 厳存 、 残存 、自存、 併存
「ゾン○○」	「○○ゾン」
存外、存念、存分、存命	異存、一存、温存、実存、所存、生存、保存

四角囲みの語は、放送用語委員会で「ソ
ン」と「ゾン」でゆれがおこっていると指摘され
ている語である（最上勝也（1989）, 浅井真慧
（1991））。1字目に「存」がきており、意味が「存
在していること」を表している語は「ソン」と読
む。2字目に「存」がきている場合には、意味
に関係なく「ゾン」と読む傾向が強まっていると
言えるだろう。ただし、「自存」は「ソン」で固
定しており、「存」の位置のほかにも、1字目の
拍数などゆれの要因になるものがあると考えら
れる。今回の調査語である「共存」「残存」は、
「存」の意味や位置など似た条件の語だが、「残
存」のほうが「ソン」の読みを残す人がわずかに
多い。

現代日本語書き言葉均衡コーパス（少納言）²⁷⁾

共存：802件 ←→ 残存：546件
NHK ニュース検索²⁸⁾

共存：1,171件 ←→ 残存：273件
インターネット検索（goo）

共存：273万 ←→ 残存：136万

インターネット検索などの結果から、「残存」
は「共存」よりも使用頻度が低いことがわかる。
よく使われることで、語のなじみ度が増し「○
○存」で多いパターンである「ゾン」の読みを選
びやすくなるのかもしれない。

2-3 「根治」の読み

漢音 ち ← 呉音 ジ

① NHK での扱い

伝統的には「コンジ」と読まれる語だが、「コ
ンチ」と読まれるようになってきている。放送
用語委員会における「根治」の読みの決定はな
い。「根治」以外で「治」を含む漢語については、
何回か放送用語委員会で審議されている。

用語の決定

□「不治」の読み

・第542回放送用語委員会（1963）
フチ ×フジ

・第611回放送用語委員会（1966）
①フチ ②フジ

□「主治医」の読み

・第542回放送用語委員会（1963）
シュジイ × シュチイ

□「治癒」「治療」の読み

・第22回放送用語委員会（1935）
治癒（チュウ）、治療（①チリョー ②ジ
リョー）

・第76回放送用語委員会（1938）
治療（①チリョー ②ジリョー）

*この後、決定はないが、1943年版『NHK アクセント辞典』
以降「チリョー」のみ

『NHK アクセント辞典』は1943年版以降現
在まで「コンジ」のみを掲載している。また、放
送用語・表現班に保存されている『同音語類音
語』（1941）に「コンジ」の読みが記されている。

『NHK アクセント辞典』掲載の変遷

（1943）（1951）（1966）（1985）（1998）

コンジ

② 辞書での扱い

表 14 コンジかコンチか（辞書類での扱い／全 61 冊）

	大正以前	昭和（戦前）	昭和（戦後）	平成
コンジ	8 [8]	13 [12]	10 [9]	16 [15]
コンチ	1 [0]	2 [1]	7 [2]	15 [2]

いずれの辞書も「コンジ」を主な見出しにして
おり、「コンチ」を主見出しにするものは少ない。
『新明解国語辞典』は、初版から6版まで「コ
ンジ」を主見出しにし、「コンチ」の項目には「コ
ンジの老人語」という説明をいれていた。最新
版（7版・2012）ではこの説明を削除し、「コン

チ」を主見出しに、「コンジ」を副見出しに変更した。

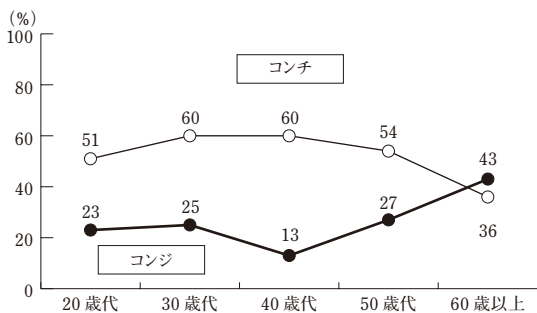
③調査結果

Q. なかなか根治しない	
コンジ	35%
コンチ	55%

全体では、「コンチ」が多い結果になったが、35%の人が「コンジ」と読んでおり、ゆれのさなかにある語と言えそうだ。

「コンジとしか言わない人」と「コンチとしか言わない人」で、年代差を見ると図11のとおりである。60歳以上では、「コンジ」が「コンチ」よりも多い。先に触れた『新明解国語辞典』の旧版に掲載されていた「コンチはコンジの老人語」というのは、今回の調査の結果からは反対で、「コンジはコンチの老人語」とでも言うべき結果になっている。

図11 「根治」の読み(年代別)



*コンジ:「コンジと言う(コンチとは言わない)」
 コンチ:「コンチと言う(コンジとは言わない)」

④「チ」と「ジ」でゆれのさなかにある

『NHKアクセント辞典』に掲載のある、「治」を含む二字漢語には次のようなものがある。

- ・「ジ」と読むもの:根治, 主治(医), 政治, 退治, 湯治, 難治, 明治, 療治
- ・「チ」と読むもの:完治, 自治, 全治, 治安,

治下, 治験, 治山, 治産, 治者, 治水, 治績, 治癒, 治乱(興亡), 治療, 統治, 法治(国)

・「チ」「ジ」と読むもの:(禁)治産, 不治
 網掛けの語は「根治」の「治」同様「治す」という意味である。その中で「チ」と「ジ」でゆれがある語を四角で囲んだ。

「治癒」「治療」は、1939年ごろに「チ」「ジ」でゆれが生じていたことがあった(塩田雄大(2009))。しかし、現在では1字目に「治」がくる場合は「チ」の読みに落ち着いた。一方、2字目に「治」がくる場合、語によって「ジ」と読むもの(例:「湯治」は「トージ」と読む)と「チ」と読むもの(例:「完治」は「カンチ」と読む)、また、ゆれのあるものがある(例:「根治」)。「根治」のほかには、放送用語委員会で、「不治」に読みのゆれがあることが指摘されている。また、「難治」は伝統的には「ナンジ」だが『学術用語集(医学編)』では「ナンチ」と読まれており、ゆれが生じている²⁹⁾。『学術用語集(医学編)』に立項のある「治」関連の語はすべて「チ」である³⁰⁾。医学用語として使われる語に限って言えば、「治」は「チ」と読むという意識が働いているのかもしれない。

「根治」は、「ジ」と読んでいる人も少なくない。これは、「コンジ」が伝統的な読みであると意識してのことではない可能性もある。「治」は「治る」という意味以外にも「治める」という意味でも使われる。その場合、「政治」などのように「ジ」と読まれることが多い。「○ジ」と読む語からの類推で「コンジ」と答えた人も一定数いるのではないだろうか。

2-4 「便覧」の読み

呉音「ベン」→「ピン」

① NHK での扱い

「見るのに便利のように作られた本。ハンドブック」の意味の語で、「ピンラン」「ベンラン」の読みがある。「便」の音読みは漢音が「ヘン、ヒン」で、呉音が「ベン、ピン」である。漢音、呉音、慣用音でゆれがあるのではなく、呉音の中の2つの読みでゆれのある語である。放送用語委員会で何回か審議・決定されており、『NHKアクセント辞典』には次のように掲載されている。

『NHKアクセント辞典』掲載の変遷
 (1943) ベンラン
 (1951) (1966) (1985) (1998)
 ①ベンラン ②ピンラン
 *第1219回放送用語委員会(2001年2月)で「用語の決定」があり、現在は
 ○ピンラン, ○ベンラン
 (塩田雄大(2001a),
 『NHKアクセント辞典』2001年・17刷以降)

② 辞書での扱い

表15 ベンランかピンランか
 (辞書類での扱い/全61冊)

	大正以前	昭和(戦前)	昭和(戦後)	平成
ベンラン	8 [8]	13 [13]	10 [10]	16 [13]
ピンラン	0 [0]	0 [0]	5 [1]	16 [4]

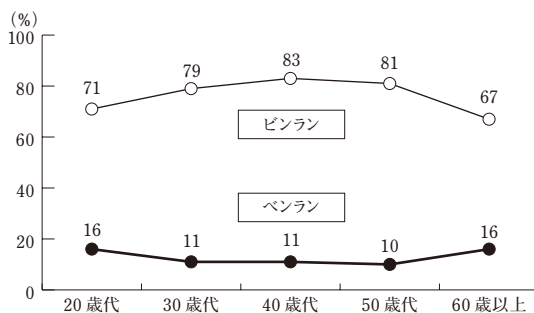
現代に至るまで、ほとんどの辞書が「ベンラン」を主見出しにしており、「ピンラン」を主見出しにするものは少ない。

③ 調査結果

Q. 便覧で調べる
 ベンラン 13%
 ピンラン 75%

全体では「ピンラン」が多い結果になった。

図12 「便覧」の読み(年代別)



年代別には、60歳以上になるとわずかに「ピンラン」が減り、「ベンラン」が増えている。

④ 「便覧」は「ピン」に

「便」にはいくつかの意味がある。『言葉に関する問答集』(文化庁・1999)では次のように解説している。

「便」を「べん」と読むときは「①つごうがよい②大小便」の意味に用いることが多く、「びん」と読むときは「①たより②ついで」の意味にもちいることがある。

『NHKアクセント辞典』に立項のある「便」を使った二字漢語には次のようなものがある。

- ・「ピン」と読む語: 穩便, 音便, 急便, 欠便, 幸便, 後便, 前便, 先便, 増便, 便乗, 便数, 便箋, 便船, 船便, 別便, 郵便
- ・「ベン」と読む語: 簡便, 軽便, 血便, 検便, 至便, 小便, 大便, 軟便, 排便, 不便, 便意, 便衣, 便益, 便宜, 便器, 便座, 便所, 便通, 便秘, 便法, 便利, 方便, 用便, 利便, 緑便
- ・「ベン」「ピン」で読む語: 便覧

網掛け部分は「都合がよい」という意味の「便」で「便覧」と同じ意味のものである。いずれも「ベン」と読まれている。この中で「便

宜」はかつて「ベンギ」「ピンギ」の読みでゆれがあった(塩田雄大(2009))。これが現代では「ベンギ」で収まっている。一方、「便覧」は、「ピンラン」が多くなっている。『国会会議録用字例』(1984)には「ピンラン」の読みで掲載されており、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」検索アプリケーション「中納言」ではデータとして語を取り込む際に「便覧」を「ピンラン」と読ませている。「便利」の意味の「便」は「ベン」と読まれる傾向にあるが、「便覧」については「ピン」と読まれる傾向にあると言える。違いを考えるために「便宜」と「便覧」の語の使用頻度を見る。

現代日本語書き言葉均衡コーパス(少納言)

便宜: 627件 ←→ 便覧: 37件

NHK ニュース検索

便宜: 3,314件 ←→ 便覧: 5件

インターネット検索(goo)

便宜: 2,830万件 ←→ 便覧:
15万5,000件

2つの語は日常的に使う語(「便宜」と、日常的にはあまり使われず公的な場面や学校教育で使われる語(「便覧」)である。学校教育では補助教材として「国語便覧」を使うことがある。浜島書店や文英堂など「国語便覧」を出している出版社のウェブページでは「kokubin」「binran」の読みがつけられている。また、「国会便覧」などでも「ピンラン」の読みで使われており、特殊な語として、異なる読みが定着したとも考えられる。

2-5 「黄土色」「黄砂」の読み

漢音「コウ」 ←→ 呉音「オウ」

① NHK での扱い

①「黄土色」を「オードイロ」と読むか、「コー

ドイロ」と読むかの問題と②「黄砂」を「オーサ」と読むか「コーサ」と読むかの問題である。調査の結果、「黄土色」は「オードイロ」、「黄砂」は「コーサ」が多い結果になった。この2つの語は、学術用語としても使われる。

黄土	オード	土木工学/地学/採鉱や金学
黄砂	コーサ	気象学/地学

また、学校教科書では『地理用語集』(山川出版社・2011)に「黄土 こうど おうど」「黄砂 こうさ」と読みがながつけられている。また、『世界史B用語集』(山川出版社・2008)には「黄土 こうど(おうど)」となっている。

放送用語委員会では、これまでに「黄砂」についての審議はしていない。「黄土」については、何回か審議を行い、読みを決めている。『NHKアクセント辞典』には次のように掲載されている。

『NHK アクセント辞典』掲載の変遷

(1966) (1985) オード

*第1101回放送用語委員会(1991年9月)で「用語の決定」があり、1991年以降は

①オード ②コード

(浅井真慧(1991))

(1998) ①オード ②コード

コーサ

*「黄土色」「黄土高原」「黄土地帯」の掲載なし

*「用語の決定」では、「黄土高原」「黄土地帯」の読みを①オード②コード、「黄土色」は「オードイロ」としている。

「黄土」「黄砂」以外の語では「黄熱病」「硫黄」の読みの決定が行われた。

用語の決定

□第358回放送用語委員会(1957)

黄熱病 オーネツビョー

□第1222回放送用語委員会(2001)

硫黄 イオー

②辞書での扱い

表 16 オードかコードか (辞書類での扱い/全 61 冊)

	大正以前	昭和 (戦前)	昭和 (戦後)	平成
オード色	0 [0]	0 [0]	3 [1]	11 [5]
コード色	0 [0]	0 [0]	0 [0]	0 [0]
オード	16 [16]	12 [12]	10 [10]	14 [14]
コード	6 [6]	11 [9]	10 [9]	15 [13]

「黄土色」について

「黄土色」は「黄土」の用例として掲載されているものが多いが、読みは「オードイロ」であり、「コードイロ」の読みをとる辞書は見当たらない。なお「黄土」という語だけで見ると、古いものは「オード」の読みだけを載せているものが多く、新しい辞書ほど、「オード」「コード」両方の読みを載せている。また「オード」と「コード」で意味を変えている辞書もある。「オード」は「黄色染料 (の原料)」の意味で、また「コード」は「中国北部に多い黄色の土」の意味で掲載されている。また、「冥土」の意味を表す語としては「コード」と読むようにしている。

表 17 オーサかコーサか (辞書類での扱い/全 61 冊)

	大正以前	昭和 (戦前)	昭和 (戦後)	平成
オーサ	0 [0]	0 [0]	1 [0]	1 [0]
コーサ	0 [0]	1 [1]	6 [6]	15 [15]

「黄砂」について

いずれの辞書も「コーサ」の読みをとっている。「オーサ」の読みは、『日本国語大辞典』(1972) (2000) に見られるが、見出しのみで語釈はない。

③調査結果

Q. 黄土色	
オード	94%
コード	5%
Q. 黄砂が飛んでくる	
オーサ	8%
コーサ	92%

「黄土色」は「オー」が多く、「黄砂」は「コー」が多い。それぞれが9割を超える結果になっている。ただし、60歳以上で「オード」「コーサ」の読みがわずかに少なく、「コード」「オーサ」の読みがわずかに多くなっている。

図 13 「黄土」の読み (年代別)

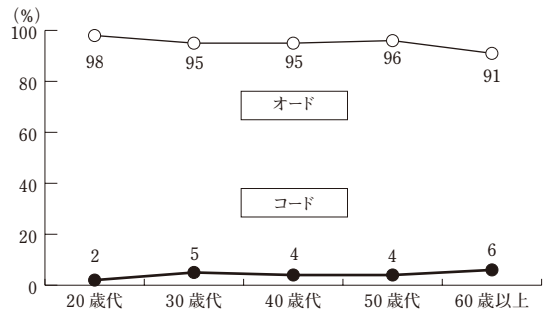
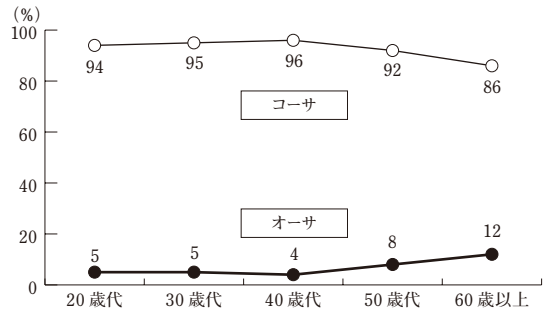


図 14 「黄砂」の読み (年代別)



④「黄」は語によって「コー」「オー」両用

「黄土色」は「オー」, 「黄砂」は「コー」で、同じ「黄」だが、語によって異なった読みが使われている。『NHKアクセント辞典』に掲載されている「黄」を含む漢語で、「オー」「コー」と読む語には次のようなものがある。

- ・「オー」と読む語: 硫黄, 黄玉, 黄金, 黄熟, 黄綬褒章, 黄水, 黄疸, 黄鉄鉱, 黄銅, 黄桃, 黄銅鉱, 黄熱病, 黄変米, 黄リン, 卵黄, 緑黄色
- ・「コー」と読む語: 黄砂, 黄塵, 黄泉,

黄道吉日, 黄白, 黄麻, 黄麻紙, 黄葉,
 黄海

- ・「オー」「コー」と読む語: 黄土, 黄道,
 黄蘭^{けん}, 黄色人種

「コー」の読みをとる語は少なく「オー」と読む語が多い。「コー」と読むものは「黄海」のような固有名や専門語ばかりである。『NHKアクセント辞典』に掲載はないが「黄河」も「コーガ」と読む。「黄砂」と「黄土色」で考えると、「黄砂」は専門語であり、「黄土色」はそうとはいえない。調査の結果、「黄砂」と「黄土色」で読みが異なるのは専門語と一般語という違いによるものもあるだろう。また、「黄」のうしろにくる漢字の読みが「漢音」なのか「呉音」なのかでも、「黄」の読みに影響を与える可能性もある。「黄砂」は「黄」「砂」ともに漢音で一定している。ただし、「黄土」は「オー」が呉音、「ド」は慣用音であり、1つの漢語に含まれる漢字音は必ずしも統一されるわけではない。

2-6 漢字音のまとめ

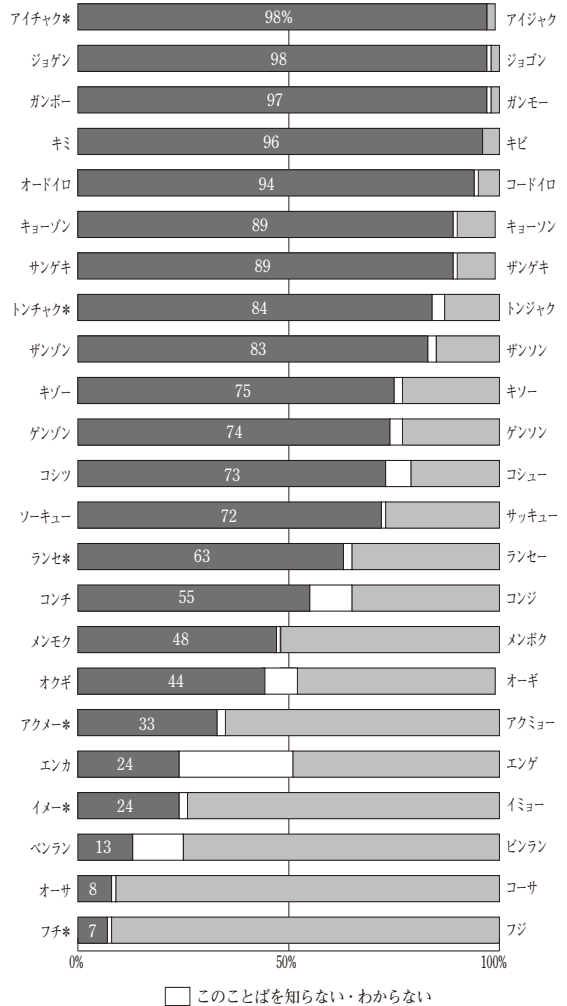
これまで述べてきたように、日本語の中の漢字にはいくつもの読みがあり、同じ漢字を含む漢語であっても、語によって読みが異なることがある(菅野謙(1979a, b))。一方で、個々の漢字の音読みが一字一音に進みつつあることが指摘されている。これらについて、塩田雄大(2011a)は、「長いものに巻かれる形」でよく使われる語群の読みに統一されていくことを指摘している。今回の調査語の中でも「共存」「残存」「根治」「黄土色」ではその傾向が見られた。しかし、「便覧」「黄砂」のように、よく使われる語群の読みではない読み方をとる語もある。

2010年から2012年にかけて、放送用語・表現班で行った調査で取り上げた二字漢語は全

部で23語ある³¹⁾。調査の結果は図15のとおりである。その漢字の字音でよく使われるほうの読みが50%以上の語は23語中15語で、漢字音はよく使われるほうの字音に統合される傾向が見られる。

ただし、例外も多い。よく使われるほうの読みが50%以下の語は「面目」「奥義」「悪名」「嚙

図15 二字漢語の読みのゆれ調査語一覧



注: *印は「エリア・サンプリング」調査を実施した語。そのほかの語は住民基本台帳による調査を行った
 注: 調査の結果、漢字の一般的と思われる読みで答える人が多かった語の順番に並べた。例えば、「愛着」の「着」は「チャク」が一般的な漢字音で、「ジャク」は特殊な漢字音。

下「異名」「便覧」「黄砂」「不治」の8語である。年代別には、8語ともに、年代があがるほど、その漢字の一般的なほうの読み方(伝統的な読みとは言えない読み)で読む人が増え、特別な読み方(伝統的な読み)で読む人が減っている。語によるが、必ずしも年代が高い人が伝統的な読みを使っているとは言えない。「嚙下」は医学用語であり、「黄砂」は気象、地学などの専門語である。「便覧」は学校教育で使われる。「奥義」「面目」「異名」「悪名」は映画のタイトルや芝居のセリフ、古典芸能などで使われる。「不治」も含めて、特別な読み方を教養として覚えたとも考えられる。例えば、「黄砂」はその季節になるとテレビやラジオの気象情報で「コーサ」の読みで頻繁に耳にする。こうしたテレビ・ラジオなどによる教育効果もあるだろう。また、この8語について学歴差を見ると、「面目」「不治」以外は、学歴が高い人ほど、特別な読み方で読む人が多い。

漢字音は「長いものに巻かれて」一字一音の方向に進んでいる。ただし、例外の語もある。例外になる理由は語ごとに異なるが、理由の1つとして、テレビ・ラジオや学校教育などによって教養として漢字の読みを身につけ、その結果、例外になるということも考えられる。

3. おわりに

以上、平成23年11月に行ったことばのゆれ調査のうち、「連濁」と「漢字音の読み」のゆれについて取り上げた。その他の調査語については56～59ページに掲載した単純集計表をご覧ください。

連濁については、これまで先行研究で指摘されてきた“規則”がある一方で、本稿および前稿で見てきたとおり、長い間「ゆれ」が続く

語があったり、“規則”に当てはめきれない方向で「ゆれ」が生じる語が存在したりしてきた。その「ゆれ」が収斂していく要因を確定するのは前述のとおり容易ではない。しかし、今回まとまった数の調査語を扱うことにより、その変化の傾向をとらえるのには、年代差と“多数派”という切り口が一助となり得るのではないかと、いうところまでは、提示できたように思える。

漢字音については、塩田雄大(2011a)での指摘をふまえ、意味の違いや漢字の置かれる位置(語頭・語中・語尾)の別、使用頻度など多角的な分析を試みた。

今回の調査結果と分析は、現在行っているアクセント辞典改訂作業のなかで生かしていくことになる。(おおた まきえ / やました ようこ)

注：

- 1) 「複合語や文節構成において後続語の語頭清音が濁音化すること」(奥村三雄(1980))。
例：「回転」+「すし」→「回転ずし」
「こうもり」+「かさ」→「こうもりがさ」
- 2) ティモシー・J・バンス(2005)では、「連濁してもしなくてもいい単語」の例として「奥深い」を挙げている。
- 3) 日本放送協会が編集したアクセント辞典は、1943(昭和18)年版、1951(昭和26)年版、1966(昭和41)年版、1985(昭和60)年版、1998(平成10)年版があり名称も変えているが、本稿では便宜上すべての版を『NHKアクセント辞典』とすることとし、出版年とともに記すことでどの年代のものかがわかるようにする。
- 4) 「オクフカイ」を選択した理由を記した資料等は残っていない。放送用語委員会での決定もない。
- 5) 調査では「国語の試験のように「正解」をたずねているではありません。あなた自身のお考えをそのまま答えてください」とことわったうえで、調査語を含む文が書かれた以下のような[回答票]を調査者が提示し、被調査者に回答肢の中から1つだけ選んでもらった。([回答票]の文字は、調査者は読み上げない)。

Q. 下線を引いた部分の読み方についておたずねします。この中から1つだけお答えください。
[回答票]

Q. 「奥深い作品」

- (ア) 「オクフカイ」と言う
 (「オクブカイ」とは言わない)
- (イ) 「オクブカイ」と言う
 (「オクフカイ」とは言わない)
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「オクフカイ」と言うことのほうが多い
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「オクブカイ」と言うことのほうが多い
- (オ) このことばを知らない

なお本稿では、煩雑を避けるため、(ア)と(ウ)の回答率を足し合わせたものを「オクフカイと答えた割合」、(イ)と(エ)の回答率を足し合わせたものを「オクブカイと答えた割合」として示す。「このことばを知らない」および無回答などについては、少ない場合は数値を示さない。

- 6) 秋永一枝 (2001) 「東京アクセントの習得法則」の54 (『新明解日本語アクセント辞典』(2001) 巻末 p.62) を参照。連濁形をとる人が増える方向に変化した結合形容詞の例としては「肌寒い」があり (坂本充 (1999)), NHK では 1999 年 2 月の第 1195 回放送用語委員会で「ハダサムイ」に加え第 2 の読みとして「ハダザムイ」を認めた (塩田雄大 (1999))。ただし、結合形容詞については塩田雄大 (2001b) で挙げられているように、連濁するものもしないものもあって必ずしも単純ではない。
- なお、連濁の傾向については、金田一春彦 (1976)・佐藤大和 (1989) などに詳しく、また、太田真希恵 (2010) (2011c) にもまとめてある。
- 7) この傾向は、「完全試合 (カンゼンシアイ／カンゼンジアイ)」(太田真希恵 (2010)), 「睡眠不足 (スイミンフソク／スイミンブソク)」 「過不足 (カフソク／カブソク)」(太田真希恵 (2011c)) で見られる。また、「罪作り (ツミツクリ／ツミヅクリ)」では 20 歳代で「～ヅクリ」が多く、この年代には、他の「～作り (造り)」の発音で「～ヅクリ」が多いということが影響しているように考えられる (太田真希恵 (2011c))。
- 8) 「ゼイヒキ」を選択した理由を記した資料等は残っていない。放送用語委員会での決定もない。
- 9) 1951 年版から「コーリカシ」という非連濁形に変えるのに議論があったのかどうかなどがわ

かる資料等は残っていない。

- 10) 佐藤大和 (1989) は、「[…を…すること]」の意識が薄く、一語としての意識が強いものは連濁を起こす」として例に「値踏み、足踏み、毛羽だち、目張り」を挙げている。「税引き」の連濁は、この“一語意識”から起こっているとも考えられるが、その一方で「税込み」が「ゼイゴミ」とはなりにくく、速断はできない。
- 11) ティモシー・J・バンス (2005) では、「動詞も名詞も連濁する」対の例として「[「返り咲く」kaeri + zaku 「返り咲き」kaeri + zaki] を挙げている。
- 12) 桜井茂治 (1997) (『NHK アクセント辞典』(1998) 巻末 p.231), 秋永一枝 (2001) 「東京アクセントの習得法則」の 45 (『新明解日本語アクセント辞典』(2001) 巻末 p.54) を参照。また、塩田雄大 (1999) では、例外として「割り引く」が示されている。
- 13) 『NHK アクセント辞典』でも「返り咲き」については、1943 (昭和 18) 年版から現行版まですべて連濁形「カエリザキ」のみを掲載してきた。なお、この点について浅井真慧 (1984) は「[「返り咲く」の場合は、「返り咲き」という名詞が先行し]その後、動詞形が使われる機会が増えるという過程があったため「動詞の読みもしいに、濁音で読む傾向が強まったのではないだろうか」としている。
- 14) 「カセンシキ カセンジキ」については、1989 年に行った下記のアンケート結果がある (最上勝也 (1990))。
調査名: 「100 人アンケート」1989 年 8 月
調査対象: 首都圏在住元 NHK 番組モニター 98 人
調査方法: 郵送
結果: 「河川敷で遊ぶ」
 カセンシキ 13 人, カセンジキ 83 人
- 15) 現行の『NHK アクセント辞典』(1998) に掲載されている「～敷 (き)」ということばを見ると、第 579 回放送用語委員会で決定の理由 3. のとおり、連濁するかどうかについては「法則的なものは認めがた」く、「～シキ」「～ジキ」のどちらかが多いというわけでもない。「河川敷」については、“長いものに巻かれる”という理由は当てはまらない。
- 16) 奥村三雄 (1980) では、「音的關係から見て、撥音の直後が最も連濁し易く、長音の直後がそれに次ぐ」としている。
- 17) 「王者」の「オーシャ／オージャ」について、「連声」による濁音化であるという考え方があることは認識しているが、ここでは広義の「連濁」

- に含めて扱う。
- 18) 原口庄輔 (2000) は「人」を表す「者 (しゃ)」の場合は、連濁を受けるものと受けないものがある」として、連濁を受けるものを 26 語挙げ、連濁を受けないものは 43 語以上あるとしたうえで「人」を表す「X 者」では、連濁を受けないのが通例で、連濁を受ける VN の構造をした 2 モーラ語と、主として宗教語 (主に仏教語) に由来する若干の語が、連濁を受けるということになる」としている。なお、ここでは「王者」は連濁を受ける語として挙げられている。
- 19) 「論者」の読みについては、第 1346 回放送用語委員会 (2011 年 7 月) でそれまでの「ロンシャ」から「①ロンジャ、②ロンシャ」に変更することを決定した (塩田雄大 (2011b, c))。これに伴い『NHK アクセント辞典』(1998) も 40 刷から掲載内容を変更している。
- 20) 過去 3 回の調査と結果掲載論文は下記のとおり。
①語形のゆれに関する調査 (平成 22 年 2 月) (太田眞希恵 (2010)), ②語形のゆれに関する調査 (平成 22 年 8 月) (太田眞希恵 (2011a)), ③ことばのゆれ調査 (平成 23 年 1 月) (太田眞希恵 (2011c))
このうち、①②はエリア・サンプリング調査 (住宅地図から世帯を無作為に抽出し、世帯から調査相手を誕生日法で抽出する層化 3 段抽出) であるため、③および今回の調査とは方法が若干異なるが、ともに全国調査であり、ここ数年で調査をした連濁のゆれに関する傾向を俯瞰 (ふかん) して見るため、ここではそれに留意したうえで③および今回の調査データとともに扱うこととする。
- 21) 現行の『NHK アクセント辞典』で「～払い」の発音を調べると、「～ハライ」(9 語) より「～バライ」(33 語) のほうが多い。
- 22) 「1 時点における年齢差のデータは見かけの時間を示すにすぎず、言語変化の単純な直接的な反映ではない」(井上史雄 (2011)) との指摘もあるが、それをふまえたうえで、ここでは年代差データを連濁/非連濁のゆれが収斂していく方向性を大きくとらえるために扱う。すなわち、その変化が若い年代ほど多くなっていけば時間の流れにおいて増加傾向にあり、若い年代ほど少なくなっていけば時間の流れにおいて減少傾向にあると仮定する。なお、図 8・9、表 12 は、井上史雄による指摘 (私信) から発想し作成したものである。
- 23) 図 8 のうち、「コゴエジヌ」「トリコシグロー」は 40 歳代の数値が最多となり 30 歳代・20 歳代ではそれより少ないが、若年層と高年層をくらべたときに若年層の数値が高いため、便宜上「増加傾向にある語」として扱う。また、年代差がほとんどないグラフについても、若年層と高年層をくらべたときに若年層の数値が高いものは便宜上「増加傾向にある語」として扱う。
- 24) 連濁の習得については、太田眞希恵 (2011b) (2011c) で「20 代は上の世代の「濁音化」を習得しつつある段階なのではないか」という仮説を提示した。これにあたる語としては、図 8・9 のうち連濁形をとる割合が 20 代 (または 20 代と 30 代) だけに他の年代とは異なる特徴が出ている語が該当する (「罪作り」「後腐れ」「高利貸し」「取り越し苦労」)。
- 25) 『放送用語調査委員会決定語彙記録 (一)』(1939.4) (部内資料) に掲載されている語の中から抜き出した。一覧は、塩田雄大 (2009) に掲載。
- 26) 本文中に出てくる漢字音の「呉音」「漢音」「慣用音」の分類は『新潮日本語漢字辞典』(2007) によった。
- 27) 国立国語研究所と文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクトが共同で開発した言語資料。http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/ 参照。
- 28) 「NHK アーカイブス」の中で NHK ニュースの原稿を 1985 年からまとめている「ニュース原稿」のデータベース (部内資料)。
- 29) 「難治」の読みについての NHK による調査はない。ただし、国語辞典の立項を調べると、「ナンジ」を主見出しにし、「ナンチ」の読みもあると説明する辞書が見られる。「ナンジ (主見出し)、ナンチ (ナンジに読みのみ掲載) 新明解、明鏡 / 「ナンジ (主見出し)、ナンチ (副見出し、ナンジを見よ) 新選、日本国語大辞典、大辞林、三省堂国語辞典。
- 30) 『学術用語集 医学編』(2003) に掲載の「治」を使った語は「根治、難治、治験、治癒、治療」とその複合語。
- 31) 2010 年 8 月調査 (エリア・サンプリング調査): 頓着、悪名、乱世、不治、異名、愛着。2011 年 1 月調査 (住民基本台帳による調査): 奥義、願望、現存、早急、面目、寄贈、固執、嚙下、助言。それぞれ、太田眞希恵 (2011a)、塩田雄大 (2011a) に報告または単純集計が掲載されている。

引用文献：

- ・秋永一枝 (2001)「東京アクセントの習得法則」『新明解日本語アクセント辞典』三省堂
- ・浅井真慧 (1984)「通りがかりの人が通りかかる」『放送研究と調査』34-2
- ・浅井真慧 (1991)「「存」のつく語の読み・「息づく」の用法など」『放送研究と調査』41-11
- ・井上史雄 (2011)『経済言語学論考 - 言語・方言・敬語の値打ち -』明治書院
- ・太田真希恵 (2010)「若者に多い「ワカシラガ」、高年層に残る「ワカジラガ」～語形のゆれに関する調査 (平成 22 年 2 月) から①～」『放送研究と調査』60-11
- ・太田真希恵 (2011a)「「のど」は「イガラッポイ」？「エガラッポイ」？～語形のゆれに関する調査 (平成 22 年 8 月) から～」『放送研究と調査』61-7
- ・太田真希恵 (2011b)「日本語のゆれの現在」『NHK 放送文化研究所 2011 年春の研究発表とシンポジウム』関連資料
http://www.nhk.or.jp/bunken/symposium/2011/pdf/b_data.pdf
- ・太田真希恵 (2011c)「女は男よりも『罪作り (つみつくり)』」～ことばのゆれ調査 (平成 23 年 1 月) から②～」『放送研究と調査』61-11
- ・奥村三雄 (1980)「連濁」『国語学大辞典』東京堂出版
- ・菅野謙 (1979a)「漢音・呉音・慣用音のゆれ (1)」『文研月報』29-10
- ・菅野謙 (1979b)「漢音・呉音・慣用音のゆれ (2)」『文研月報』29-11
- ・金田一春彦 (1976)「連濁の解」『Sophia Linguistica II』※『金田一春彦著作集 第 6 巻』(2005) に再録
- ・坂本充 (1999)「着替 (カ) えるか、着替 (ガ) えるか～第 9 回ことばのゆれ全国調査から①～」『放送研究と調査』49-3
- ・桜井茂治 (1997)「共通語の発音で注意すること」『NHK 日本語発音アクセント辞典』1998
- ・佐藤大和 (1989)「複合語におけるアクセント規則と連濁規則」『講座 日本語と日本語教育 2 日本語の音声・音韻 (上)』明治書院
- ・塩田雄大 (1999)「用語の決定～「着替える」「肌寒い」「急坂」「重用」「ぶな林」「不登校・登校拒否」～」『放送研究と調査』49-4
- ・塩田雄大 (2001a)「用語の決定～「惨敗」「七日」「便覧」「蠅」「免れる」ほか～」『放送研究と調査』51-4
- ・塩田雄大 (2001b)「カタクルシイ女・カタグルシイ男～平成 13 年度ことばのゆれ全国調査から～」『放送研究と調査』51-9
- ・塩田雄大 (2007)「漢語の読み方はどのように決められてきたか～戦前の放送用語委員会における議論の輪郭」『NHK 放送文化研究所年報 2007』
- ・塩田雄大 (2009)「戦前の放送用語委員会における“伝統絶対主義”からの脱却～1939 年『決定語彙記録 (一)』と当時の辞典類～」『放送研究と調査』59-2
- ・塩田雄大 (2011a)「^{びだんし}が多いのはどの地域？～ことばのゆれ調査 (平成 23 年 1 月) から①～」『放送研究と調査』61-10
- ・塩田雄大 (2011b)「用語の決定～「愛着」「願望」「惨敗」「助言」「みぞおち」「豚肉」ほか (前編)～」『放送研究と調査』61-10
- ・塩田雄大 (2011c)「用語の決定～「愛着」「願望」「惨敗」「助言」「みぞおち」「豚肉」ほか (後編)～」『放送研究と調査』61-11
- ・Shioda, Takehiro (2011d) “The Age Difference of Rendaku on Nationwide Survey” International Conference on Phonetics and Phonology (ICPP 2011) 配付資料
- ・塩田雄大 (2013 予定)「ゆれ」『方言学事典』朝倉書店
- ・ティモシー・J・バンス (2005)「日本語教育における連濁」『言語学と日本語教育Ⅳ』くろしお出版
- ・日本放送協会 (1941)『同音語類音語』放送用語・表現班部内資料
- ・原口庄輔 (2000)「新「連濁」論の試み」『平成 11 年度 COE 形成基礎研究費研究成果報告 (4)「先端的言語理論の構築とその多角的実証 (4-B) - ヒトの言語を組み立て演算する能力を語彙の意味概念から探る -』」
<http://coe-sun.kuis.ac.jp/public/paper/outside/haraguchi2.pdf>
- ・文化庁 (1999)『言葉に関する問答集 総集編』
- ・最上勝也 (1989)「放送のことば - 「大地震」をどう読みますか」『放送研究と調査』39-10
- ・最上勝也 (1990)「「連濁のゆれ」100 人アンケートから・その 2」『放送研究と調査』40-10

表 18 辞書調査一覧

調査語(発音)				王者		黄士			奥深い		
辞書名・出版社・発行年				オーシャ (ワウシャ)	オーヅナ (ワウヅナ)	オード (ワウド)	オードイロ (ワウイロ)	コード (クワウド)	コードイロ (クワウイロ)	オクフカイ	オクフカイ
1	日葡辞書	長崎版	(江戸時代)	1603	○	○	○	○	○	○	○
2	和英語林集成 初版・再版・3版	日本横浜		1867 加版/1872 再版/1886 3版	○	○	○	○	○	△*1	○
3	和独対訳字林(レーマン)	日比谷・加藤	明10	1877	○	○	○	○	○	○	○
4	漢英対照いろは辞典	国文社	明21	1888	○	○	○	○	○	○*2	○
5	私版日本語言海	大槻文彦	明22~24	1889~1891	○	○	○	○	○	○*3	○
6	日本大辞書	明法堂	明25	1892	○	○	○	○	○	○	○
7	日本大辞林	宮内庁	明27	1894	○	○	○	○	○	○	○*4
8	日本大辞典	博文館	明29	1896	○	○	○	○	○	○	○*4
9	和英大辞典(プリンクリー)	三省堂	明29	1896	○	○	○	○	○	○	△
10	言海(縮刷、ちくま学芸文庫版)	六合館	明37	1904	○	○	○	○	○	○*3	○
11	和仏小辞典(ルマレシヤル)	三才社	明37	1904	○	○	○	○	○	○	○
12	ことばの泉 日本大辞典	大倉書店	明41	1908	○	○	○	○	○	○	○*5
13	俗語辞海	集文館	明42	1909	○	○	○	○	○	○	○
14	新訳和英辞典(井上十吉)	三省堂	明42	1909	○	○	○	○	○	○	○
15	辞林(辞林) 改訂版	三省堂	明44	1911	○	○	○	○	○	○	○*4
16	辞海	郁文社	大3	1914	○	○	○	○	○	○	○*4
17	大日本国語辞典	富山房	大4~8	1915~1919	○	○	○	○	○	○*3	○
18	新式辞典(芳賀矢一)	大倉書店	大11	1922	○	○	○	○	○	○	○*4
19	スタンダード和英大辞典	大阪實文館, 東京實文館, 同文館	大13	1924	○	○	○	○	○	○	○
20	ローマ字で引く国語辞典	富山房	大14	1925	○	○	○	○	○	○	○
21	広辞林(廣辞林) 7版	三省堂	大15	1926	○	○	○	○	○	○	○*4
22	日本大辞典 言泉	大倉書店	昭2	1927	○	○	○	○	○	○*3	○
23	小辞林	三省堂	昭3	1928	○	○	○	○	○	○	○*4
24	NEW 斎藤和英大辞典	日英社	昭3	1928	○	○	○	○	○	△	○
25	研究社新和英大辞典	研究社	昭6	1931	○	○	○	○	○	○	○
26	改修新式辞典(芳賀矢一)	大倉書店	昭6	1931	○	○	○	○	○	○	○*4
27	国語発音アクセント辞典	厚生閣	昭7	1932	○	○	○	○	○	○	○
28	大言海	富山房	昭7~10	1932~1935	○	○	○	○	○	○*3	○
29	大辞典	平凡社	昭9~11	1934~1936	○	○	○	△	○	○*3	○
30	辞苑	博文館	昭10	1935	○	○	○	○	○	○	○*4
31	増補新辞典	至文堂	昭10	1935	○	○	○	○	○	○	○*4
32	アクセント表示 新辞海	三学社	昭13	1938	○	○	○	○	○	○	○
33	言苑(戦前版)	博文館	昭13	1938	○	○	○	○	○	○*3	○
34	言苑	博友社	昭15	1940	○	○	○	○	○	○*3	○
35	標準日本語発音比較辞典	興南新聞社出版部	昭16	1941	○	○	○	○	○	○	○
36	小言林	全国書房	昭24	1949	○	○	○	○	○	○	○
37	言苑(戦後版)	博友社	昭24	1949	○	○	○	○	○	○*3	○
38	明解国語辞典改訂版	三省堂	昭27	1952	○	○	○	○	○	□	○
39	広辞苑 初版	岩波書店	昭30	1955	○	○	○	○	○	○	○
40	角川国語辞典 30版	角川書店	昭32	1957	○	○	○	○	○	○	○
41	三省堂国語辞典 初版	三省堂	昭36	1961	○	□	○	○	○	○	□
42	岩波国語辞典 初版	岩波書店	昭38	1963	○	○	○	○	○	○	○
43	新明解国語辞典 初版	三省堂	昭47	1972	□	○	○	○*1	△	○	□
44	日本国語大辞典	小学館	昭47~51	1972~1976	○	□	○	○	○	○	□
45	広辞林 6版	三省堂	昭58	1983	○	○	○	○*1	○	○	□
46	新潮国語辞典 第2版	新潮社	平7	1995	□*1	○	○	○	○	○	○
47	大辞泉 増補・新装版	小学館	平10	1998	□	○	○	○*1	○	□	○
48	日本国語大辞典 2版	小学館	平12	2000	○	○	○	○	○	○	□
49	新潮現代国語辞典 2版	新潮社	平12	2000	□*2	○	○	○*1	○	○	○
50	明鏡国語辞典	大修館書店	平14	2002	□	○	○	○	○	○	□
51	新和英大辞典 第5版	研究社	平15	2003	○*2	○*1	○	○	○	○	○
52	新明解国語辞典 6版	三省堂	平17	2005	□	○	○	○*1	△	○	□
53	大辞林 3版	三省堂	平18	2006	□*1	○	○	○*1	○	○	□
54	角川国語辞典 新版 416版	角川書店	平19	2007	○*2	○*1	○	○	○	○	○
55	広辞苑 6版	岩波書店	平20	2008	○	○	○	○*1	○	○	○
56	三省堂国語辞典 6版	三省堂	平20	2008	□	○	○	○*1	○	○	□
57	明鏡国語辞典 第2版	大修館書店	平22	2010	□	○	○	○	○	○	□
58	新選国語辞典 第9版	小学館	平23	2011	○	○	○	○	○	○*2	○*1
59	現代新国語辞典 第4版	三省堂	平23	2011	○	○	○	○	○	○	□
60	岩波国語辞典 第7版 新版	岩波書店	平23	2011	○	□	○	○	○	○	○
61	例解新国語辞典 第8版	三省堂	平24	2012	○	○	○	○	○	○	○
①	アクセント辞典 S18 年版(初刷)	NHK	昭18	1943	○	○	○	○	○	○	○
②	アクセント辞典 S26 年版(初刷)	NHK	昭26	1951	(○)	○	○	○	○	○	○
③	アクセント辞典 S41 年版(初刷)	NHK	昭41	1966	(○)	○	○	○	○	○	○
④	アクセント辞典 S60 年版(初刷)	NHK	昭60	1985	(○)	○	○	○	○	○	○
⑤	アクセント辞典 H10 年版(初刷)	NHK	平10	1998	(○)	○	○	○	○	○	○
	備考				*1: 語釈に「古くはオーシャ」とあり *2: 「古くはオーシャが普通」とあり		*1: 「オード」の子見出し。または用例中にあり			*1: 3版のみ掲載 *2: オクフカイで掲載 *3: オクフカイで掲載 *4: オクフカイで掲載 *5: 語釈にオクフカイあり	

○ 見出しがあり、語釈もついている。
 □ 見出しはあるが、語釈はなく「×××を見よ」「→×××」などであり、またその対する語の中に「○○○と書う」「=○○○」などの形でその単語が載っている。
 △ 見出しはあるが、語釈はなく「×××を見よ」「×××と同じ」「→×××」などとなっている。
 □ その語の見出しはないが、その調査語の中に「×××とも書う」「=×××」などの形でその単語が載っている。
 ■ 掲載があるが、読み不明。
 ◆ 見出し語はないが、他の語の中にあり、読みがわかる。
 ・ 掲載なし。
 ※ 備考欄は、括弧付きでの掲載を示す。「①」、「②」の数字は両方掲載されているときの掲載順を示す。

同じく(ぐ) らい		返り咲く		河川敷		共存		黄砂		高利貸し		根治		残存		税引き		便覧		
オナジクライ	オナジグライ	カエリサク (カヘリサク)	カエリザク (カヘリザク)	カセンシキ	カセンジキ	キョーソソ	キョーソソ	コーサ (クウサ)	オーサ (ワウサ)	コーリカシ (カウリカシ)	コーリガシ (カウリガシ)	コンジ (コチ)	コンチ	ザソソ	ザソソ	ゼイヒキ	ゼイビキ	ペンソソ	ピンソソ	
.	1
.	◎*1	2
.	3
.	.	.	*1	◎	4
.	.	.	*1	5
.	.	.	*1	◎	6
.	.	.	*1	◎	7
.	.	.	*1	◎	8
.	.	.	*1	◎	9
.	.	.	*1	◎	10
.	.	.	*1	◎	11
.	.	.	*1	◎	◎	12
.	.	.	*1	13
.	.	.	*1	◎	.	◎	14
.	.	.	*1	◎	.	◎	◎	15
.	.	.	*1	◎	.	◎	◎	16
.	.	◎	*1	◎	.	◎	.	◎	◎	17
.	.	.	*1	◎	.	◎	.	◎	◎	18
.	.	.	*1	.	.	◎	.	.	.	■	■	◎	△	◎	◎	19
.	.	.	*1	◎	.	◎	◎	20
.	.	.	*1	◎	.	◎	◎	21
.	.	◎	*1	◎	.	.	◎	◎	22
◆	.	.	*1	.	.	◎	◎	.	◎	◎	23
■	■	.	*1	.	.	◎	△	.	.	.	◎	.	◎	◎	24
■	■	.	*1	.	.	◎	◎	.	◎	◎	25
◎1	◎2	.	*1	◎	◎	26
.	.	.	*1	◎	◎	27
.	.	.	*1	◎	◎	28
.	.	◎	*1	.	.	*1	*1	◎*1	.	.	◎	.	◎	.	◎	*1	.	.	◎	29
.	.	◎	*1	◎	.	◎	.	◎	.	.	.	◎	30
.	.	.	*1	◎	.	◎	.	◎	.	.	.	◎	31
.	.	.	*1	■	■	◎	.	◎	◎	32
.	.	.	*1	.	.	◎	◎	.	◎	◎	33
.	.	.	*1	.	.	◎	◎	.	◎	.	◎	.	.	.	◎	34
.	.	.	*1	◎	.	◎	◎	35
.	.	◎	*1	◎	.	◎	.	.	.	■	■	◎	○	◎	◎	36
.	.	.	*1	.	.	◎	◎	.	◎	.	◎	.	.	.	◎	37
.	.	◎*1	.	.	.	◎	.	◎	.	.	.	△	◎	◎	(◎)	.	.	.	◎	38
.	.	◎*1	.	◎	.	◎	.	◎	.	.	◎	◎	◎	◎	◎	39
.	.	.	*1	.	.	◎	◎	.	◎	.	◎	.	.	.	◎	40
.	.	■*2	■*1,*2	.	.	◎	◎	.	◎	.	◎	.	.	.	◎	41
.	.	.	*1	◎	.	◎	□	◎	.	.	◎	.	△	◎	◎	42
.	.	■*2	■*1,*2	◎	.	◎	□	◎	.	□	◎	.	◎*1	◎	□	◎	.	.	◎	43
.	.	□	◎*1	◎	.	◎	□	◎*1	△	.	.	◎	△	□	◎	◎	□	◎	◎	44
.	.	.	◎*1	◎	□	◎	□	◎	.	.	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	45
.	.	.	◎*1	◎	.	◎	□	◎*1	.	□	◎	◎	◎	◎	□	.	.	.	◎	46
.	.	.	◎*1	◎	.	◎	□	◎*1	.	□	◎	◎	◎	◎	□	.	.	.	◎	47
.	.	□	◎*1	◎	□	◎	□	◎*1	△	.	.	◎	◎	◎	□	◎	◎	◎	◎	48
.	.	.	◎*1	◎	.	◎	□	◎*1	.	◎	□	◎	□	◎	◎	◎	◎	◎	◎	49
.	.	.	◆*1	◎	□	□*2	◎	◎	.	■	■	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	50
◆	.	.	◎*1	◎1	◎2	◎2	◎	◎	.	.	.	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	51
.	.	■*2	■*1,*2	◎	.	◎	□	◎	.	◎	.	◎	◎*1	◎	□	◎	◎	◎	◎	52
.	.	.	◎*1	◎	.	◎	□	◎*1	.	□	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	53
.	.	.	*1	.	.	◎1	◎2	◎	◎1	◎2	◎	54
.	.	.	◎*1	◎	.	◎	◎	◎*1	.	.	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	55
.	.	■*2	■*1,*2	◎	□	◎	□	◎	.	□	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	56
.	.	.	◆*1	◎	□	□*2	◎	◎	.	□	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	57
.	.	.	◎*1	◎	.	◎1	◎2	◎	.	◎	.	◎	◎	◎	◎	58
.	.	.	◎*1	◎	.	◎	□	◎	.	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	59
.	.	.	◎*1	◎	.	◎	□	◎	.	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	60
.	.	.	◎	◎	.	◎	□	◎	.	◎	.	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	61
◎1	◎2	.	*1	.	.	*1	◎	.	.	◎	◎	①
◎1	◎2	◎	(◎)*1	.	.	*1	◎	.	◎	◎	②
◎1	◎2	(◎)	◎*	.	.	◎	.	.	.	◎	.	◎	.	◎	.	◎	.	.	◎	③
◎1	◎2	◎2	◎1,*1	◎1	◎2	◎	.	◎	.	◎	.	◎	.	◎	.	◎	.	.	◎	④
◎1	◎2	◎2	◎1,*1	◎1	◎2	◎	.	◎	.	◎	.	◎	.	◎	.	◎	.	.	◎	⑤

*1:カエリザキの掲載あり
*2:カエリザキの動向形で「返り咲く」とあるが、読み不明

*1:「カセンシキ」の語釈中に「[「カセンシキ」の「敷」と同じなの
で、「カセンシキ」と言うのは誤り]とあり

*1:複合語の形で掲載あり/
*2:「キョーソソ」の語釈に「近年「キョーソソ」が盛んだが本来は「キョーソソ」とあり

*1:漢字表記「黄砂/黄砂」

*1:3数のみ掲載

*1:「コンジの老人語」とあり

*1:複合語になると「ザソソ」になることもあり

ことばのゆれに関する調査
(平成 23 年 11 月) 単純集計果

【調査の概要】

1. 調査時期 平成 23 (2011) 年 11 月 3 日～ 20 日
2. 調査方法 調査員による個別面接聴取法
3. 調査対象 全国満 20 歳以上の男女
4. 調査相手 住民基本台帳から層化無作為 2 段抽出
2,000 人
5. 有効数 (率) 1,365 人 (68.3%)

気温の読みについてうかがいます。

Q1. 次の文は、**気温**について言ったものです。あなたが話す場合、どう言いますか。この中から 1 つだけお答えください。

1. まず、次の場合は、いかがでしょうか。

- a. きょうの気温は「**23 ド 6 プ**」です。
b. きょうの気温は「**23 テン 6 ド**」です。

- (ア) a…………… 46.2 %
(イ) どちらかというとも a ……………5.5
(ウ) どちらかというとも b ……………9.7
(エ) b…………… 37.4
 どちらも言わない・わからない ……………1.2

2. では、次の場合は、いかがでしょうか。

- a. きょうの気温は「**氷点下 5 度**」です。
b. きょうの気温は「**マイナス 5 度**」です。

- (ア) a…………… 22.7 %
(イ) どちらかというとも a ……………5.4
(ウ) どちらかというとも b …………… 11.2
(エ) b…………… 59.2
 どちらも言わない・わからない ……………1.5

Q2. 次に、テレビの放送で聞く場合はいかがでしょうか。

1. まず、このテレビ画面が出ている状態で、アナウンサーが「23 ド 6 プ」と読むことについて、どのように思いますか。あなたの意見にいちばん近いものを 1 つだけ選んでお答えください。



- (ア) 表記は「23.6 度」でも、読み上げる場合は「23 ド 6 プ」のほうがよい …………… 28.9 %
(イ) 表記が「23.6 度」なのであれば、読み上げる場合も「23 テン 6 ド」のほうがよい …………… 58.6
(ウ) 「23 ド 6 プ」と読んで、表記も読みに合わせて「23 度 6 分」としたほうがよい ……………7.7
(エ) このなかにはない ……………3.2
 わからない ……………1.6

2. 次に、このテレビ画面が出ている状態で、アナウンサーが「氷点下 5 度」と読むことについて、どのように思いますか。あなたの意見にいちばん近いものを 1 つだけ選んでお答えください。



- (ア) 表記は「- 5 度」でも、読み上げる場合は「ヒョーテンカ 5 ド」のほうがよい…………… 23.0 %
(イ) 表記が「- 5 度」なのであれば、読み上げる場合も「マイナス 5 ド」のほうがよい…………… 65.3
(ウ) 「ヒョーテンカ 5 ド」と読んで、表記も読みに合わせて「氷点下 5 度」としたほうがよい ……………7.6
(エ) このなかにはない ……………2.9
 わからない ……………1.2

次に、ことばについておたずねします。

ここからの質問は、国語の試験のように「正解」をたずねているわけではありません。あなた自身のお考えを、そのまま答えてください。

Q3. 下線を引いた部分の読み方についておたずねします。この中から 1 つだけお答えください。

1. 「自然との共存」

- (ア) 「キョーゾン」と言う
 (「キョーゾン」とは言わない) ……7.5 %
- (イ) 「キョーゾン」と言う
 (「キョーゾン」とは言わない) …… 82.2
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「キョーゾン」と言うことのほうが多い ……1.9
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「キョーゾン」と言うことのほうが多い ……7.2
- (オ) このことばを知らない ……0.5
 わからない ……0.7

2. 「トップに返り咲く」

- (ア) 「カエリサク」と言う
 (「カエリザク」とは言わない) …… 12.1 %
- (イ) 「カエリザク」と言う
 (「カエリサク」とは言わない) …… 78.0
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「カエリサク」と言うことのほうが多い ……2.7
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「カエリザク」と言うことのほうが多い ……6.5
- (オ) このことばを知らない ……0.1
 わからない ……0.5

3. 「黄土色」

- (ア) 「オード」と言う (「コード」とは言わない) …… 89.1 %
- (イ) 「コード」と言う (「オード」とは言わない) ……3.4
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「オード」と言うことのほうが多い ……5.0
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「コード」と言うことのほうが多い ……1.3
- (オ) このことばを知らない ……0.7
 わからない ……0.5

4. 「奥深い作品」

- (ア) 「オクフカイ」と言う
 (「オクブカイ」とは言わない) …… 13.0 %
- (イ) 「オクブカイ」と言う
 (「オクフカイ」とは言わない) …… 76.3
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「オクフカイ」と言うことのほうが多い ……2.5
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「オクブカイ」と言うことのほうが多い ……8.1
- (オ) このことばを知らない ……0.0
 わからない ……0.2

5. 「なかなか根治しない」

- (ア) 「コンジ」と言う (「コンチ」とは言わない) …… 29.7 %
- (イ) 「コンチ」と言う (「コンジ」とは言わない) …… 49.7
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「コンジ」と言うことのほうが多い ……5.1
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「コンチ」と言うことのほうが多い ……5.2
- (オ) このことばを知らない ……8.0
 わからない ……2.3

6. 「河川敷を歩く」

- (ア) 「カセンシキ」と言う
 (「カセンジキ」とは言わない) …… 20.7 %
- (イ) 「カセンジキ」と言う
 (「カセンシキ」とは言わない) …… 66.0
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「カセンシキ」と言うことのほうが多い ……4.7
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「カセンジキ」と言うことのほうが多い ……7.7
- (オ) このことばを知らない ……0.4
 わからない ……0.5

7. 「便覧で調べる」

- (ア) 「ビンラン」と言う
 (「ベンラン」とは言わない) …… 69.1 %
- (イ) 「ベンラン」と言う
 (「ビンラン」とは言わない) …… 11.6
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「ビンラン」と言うことのほうが多い ……5.8
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「ベンラン」と言うことのほうが多い ……1.5
- (オ) このことばを知らない …… 10.0
 わからない ……2.0

8. 「税引き前の価格」

- (ア) 「ゼイヒキ」と言う
 (「ゼイビキ」とは言わない) ……8.6 %
- (イ) 「ゼイビキ」と言う
 (「ゼイヒキ」とは言わない) …… 84.2
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「ゼイヒキ」と言うことのほうが多い ……1.8
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
 「ゼイビキ」と言うことのほうが多い ……4.8
- (オ) このことばを知らない ……0.4
 わからない ……0.3

9. 「**気味が悪い**」

- (ア) 「**キビ**」と言う (「**キミ**」とは言わない) ……2.3 %
- (イ) 「**キミ**」と言う (「**キビ**」とは言わない) …… 94.2
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**キビ**」と言うことのほうが多い ……1.2
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**キミ**」と言うことのほうが多い ……2.1
- (オ) このことばを知らない ……0.0
わからない ……0.1

10. 「**自転車に乗る**」

- (ア) 「**ジテンシャ**」と言う
(「**ジデンシャ**」とは言わない) …… 81.9 %
- (イ) 「**ジデンシャ**」と言う
(「**ジテンシャ**」とは言わない) …… 12.5
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**ジテンシャ**」と言うことのほうが多い ……3.3
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**ジデンシャ**」と言うことのほうが多い ……2.1
- (オ) このことばを知らない ……0.0
わからない ……0.1

11. 「**すさまじい惨劇**」

- (ア) 「**サンゲキ**」と言う
(「**ザンゲキ**」とは言わない) …… 85.9 %
- (イ) 「**ザンゲキ**」と言う (「**サンゲキ**」とは言わない) ……8.4
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**サンゲキ**」と言うことのほうが多い ……3.5
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**ザンゲキ**」と言うことのほうが多い ……0.7
- (オ) このことばを知らない ……0.5
わからない ……1.0

12. 「**悪徳の高利貸し**」

- (ア) 「**コーリガシ**」と言う
(「**コーリガシ**」とは言わない) …… 12.8 %
- (イ) 「**コーリガシ**」と言う
(「**コーリガシ**」とは言わない) …… 78.2
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**コーリガシ**」と言うことのほうが多い ……2.6
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**コーリガシ**」と言うことのほうが多い ……5.8
- (オ) このことばを知らない ……0.4
わからない ……0.1

13. 「**有害物質が残存している**」

- (ア) 「**ザンゾン**」と言う
(「**ザンゾン**」とは言わない) …… 12.2 %
- (イ) 「**ザンゾン**」と言う
(「**ザンゾン**」とは言わない) …… 79.5
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**ザンゾン**」と言うことのほうが多い ……2.6
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**ザンゾン**」と言うことのほうが多い ……3.8
- (オ) このことばを知らない ……1.2
わからない ……0.7

14. 「**王者の風格**」

- (ア) 「**オーシャ**」と言う
(「**オージャ**」とは言わない) ……3.3 %
- (イ) 「**オージャ**」と言う
(「**オーシャ**」とは言わない) …… 92.6
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**オーシャ**」と言うことのほうが多い ……0.9
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**オージャ**」と言うことのほうが多い ……2.6
- (オ) このことばを知らない ……0.3
わからない ……0.3

15. 「**黄砂が飛んでくる**」

- (ア) 「**オーサ**」と言う (「**コーサ**」とは言わない) ……6.8 %
- (イ) 「**コーサ**」と言う (「**オーサ**」とは言わない) …… 87.8
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**オーサ**」と言うことのほうが多い ……1.0
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**コーサ**」と言うことのほうが多い ……3.7
- (オ) このことばを知らない ……0.4
わからない ……0.3

16. 「**舌鼓を打つ**」

- (ア) 「**シタツツミ**」と言う
(「**シタツツミ**」とは言わない) …… 28.3 %
- (イ) 「**シタツツミ**」と言う
(「**シタツツミ**」とは言わない) …… 62.4
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**シタツツミ**」と言うことのほうが多い ……3.8
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば
「**シタツツミ**」と言うことのほうが多い ……4.3
- (オ) このことばを知らない ……0.6
わからない ……0.6

Q4. カッコの中の言い方についておたずねします。この中から1つだけお答えください。

1. 「目を（つぶる／つむる）」

- (ア) 「ツブル」と言う（「ツムル」とは言わない） …… 54.2 %
- (イ) 「ツムル」と言う（「ツブル」とは言わない） …… 24.9
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば「ツブル」と言うことのほうが多い …… 13.3
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば「ツムル」と言うことのほうが多い …… 7.0
- (オ) このことばを知らない …… 0.4
わからない …… 0.2

2. 「（おなじくらい／おなじぐらい）の背の高さ」

- (ア) 「オナジクライ」と言う
（「オナジグライ」とは言わない） …… 36.6 %
- (イ) 「オナジグライ」と言う
（「オナジクライ」とは言わない） …… 38.3
- (ウ) 両方とも言うが、どちらかといえば「オナジクライ」と言うことのほうが多い …… 12.0
- (エ) 両方とも言うが、どちらかといえば「オナジグライ」と言うことのほうが多い …… 12.7
- (オ) このことばを知らない …… 0.0
わからない …… 0.4

全 体	性 別		年 齢				
	男 性	女 性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
1,365人	633	732	167	279	209	226	484
100.0%	46.4	53.6	12.2	20.4	15.3	16.6	35.5

全 体	男 の 年 齢					女 の 年 齢				
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
1,365人	83	127	95	97	231	84	152	114	129	253
100.0%	6.1	9.3	7.0	7.1	16.9	6.2	11.1	8.4	9.5	18.5